

アメリカのサーカス産業における
Nik Wallenda の業績の意義
——Niagara Falls Walk を中心として——

尾 上 典 子

まえがき

- I Nik Wallenda の誕生から Niagara の滝に挑戦するまでの彼の文化的業績
 - II Wallenda 以前に Niagara の滝に挑んだ人々
 - III 世紀のイベントを成功させるための準備
 - IV Niagara の滝渡りの成功
- 結び

2 アメリカのサーカス産業における Nik Wallenda の業績の意義



Nik Wallenda

まえがき

昨年（2013年）6月23日、Grand Canyonの東縁（East Rim）のLittle Colorado River 上空1,500フィート（457メートル）の断崖Hellhole Bendに張られた1,400フィート（427メートル）のワイヤーを、安全防具を装着せずに渡ることに成功したNikolas（Nik）Wallendaは、空中アクロバットの名門Wallenda一族の七代目にあたり、上記の偉業がDiscovery Channelによって実況放送され、わが国を含む世界217か国の視聴者が鑑賞した¹⁾ことは記憶に新しい。

彼は一昨年（2012年）6月15日、人類史上初めて、Niagaraの滝をアメリカ側からカナダ側にかけて、完全な形で渡ることに成功し、この歴史的偉業をアメリカの1億3千3百万人以上の人々がABC放送を通して鑑賞し²⁾、全世界で10億の人々が見聞した³⁾にとどまらず、New York州Niagara Falls市に330万ドルの収入をもたらした⁴⁾、Canada側に2050万ドル以上の経済波及効果をもたらした⁵⁾とされる。Nik Wallendaの輝かしい業績が、全世界においてサーカス芸術に対する関心を高める契機となったことは言うまでもない。そしてNiagara Falls WalkでCanadaに到達して、入国目的を尋ねられた彼は“To inspire people around the world.”（「世界中の人々に靈感を与えること」）⁶⁾と即答して、防水袋に入れたパスポートを見せた。

Nik Wallendaの凄まじいまでの情熱を支えたものは、high wire artistであった曾祖父—Karl Wallenda（1905～1978）への限り無い敬愛の念と敬虔なキリスト教精神であった。彼自身が述べている通り、tightropeは体力と鋭い集中力を必要とする工学と訓練の極致であり、1770年代のサーカスに端を発するポピュラー・エンターテインメントの一形態としてアメリカの歴史の重要な一部となってきた。

本稿の趣旨は、Nik WallendaがNiagaraの滝での壮大なイベントを成功させるまでの半生を考察し、彼がサーカス産業にもたらした文化的・経済的意義を追求するとともに、彼の親友の一人として、サーカス（特に伝統的歴史に

支えられたサーカス)が、21世紀のライヴ・エンターテインメントの本流を成す大いなる可能性を持っていることを立証することである。

【注】

- 1) *The Japan Times* (June 25, 2013).; <http://www.reuters.com/article/2013/06/24/usa-highwire-grandcanyon-idUSL2NOF000S20130624> (January 9, 2014). ; <http://www.heraldtribune.com/article/20130608/ARTICLE/130609677#gsc.tab=0> (January 9, 2014).
- 2) <http://nikwallenda.com/bio> (January 25, 2013).
- 3) <http://www.stcatharinesstandard.ca/2012/06/18/nik-slams-ny-state-parks> (January 25, 2013).
- 4) <http://www.wgrz.com/news/article/173173/37/Wallenda-Impact-on-Niagara-Falls-Exceeds-33-Million> (January 25, 2013).
- 5) <http://www.heraldtribune.com/article/20120428/ARTICLE/120429545?=4&tc=pg> (January 25, 2013).
- 6) <http://abcnews.go.com/Entertainment/niagara-falls-high-wire-walk-nik-wallenda-fulfills-lifelong-dream> (January 9, 2014).

I Nik Wallenda の誕生から Niagara の 滝に挑戦するまでの彼の文化的業績

Nik Wallenda (Nikolas Wallenda Troffer) は、1979年1月24日、Florida州 Sarasota で、Terry Troffer と Delilah Wallenda Troffer の間に誕生した¹⁾。Nik には2歳年上の姉 Lijana (1977年2月10日生まれ) がいた²⁾。Delilah も Terry も一流の high wire artist であったが、当時アメリカのサーカス産業はテレビの普及によって衰退しつつあり、夫妻はサーカスで演技する機会を見つけるのが難しく、サーカスでの仕事がないときは、生活を支えるために、Terry は父親の会社で防水加工工事の業務に携わり、Delilah はウェイトレスなどの仕事をしてきた³⁾。予定より2週間遅く生まれてきた長男 Nik は紫色に見え、両親は、この男の子が将来の吉兆となる“space baby”だと喜んだ⁴⁾と言われている。Nik の誕生から数か月後には、Delilah の兄 Tino のはからいにより、両親は California を拠点とする Circus Vargass で働くことができた⁵⁾。

1981年に両親はSan DiegoのSea Worldと契約を結んでいたが、実際に仕事に取りかかるまでの1か月間は、Los Angelesに滞在して、友人の家の裏庭で演技の練習を行っていた。Nik Wallendaの回顧録*Balance: A Story of Faith, Family, and Life on the Line*によれば、彼は2歳のときに、空中で演技を行なうサーカス・アーティスト用の訓練用具が置かれている裏庭の地上2フィートのケーブル上に、最初の一步を踏み出した⁶⁾と述べられている。このときには母がNikの手を握って前後に歩く練習を開始した⁷⁾のだが、姉のLijana同様に常日頃から両親の素晴らしい演技を見ているうちに、ごく自然に両親と同じことをしたいと思って練習し⁸⁾、特に彼の場合には、毎日、食事の時間も惜しんで熱心に打ち込み、短期間で長足の進歩を遂げたことは言うまでもない。

NikはSan DiegoのSea Worldで、クラウン（道化師）としてデビューし、以後10年間、クラウン役をつとめ、これが彼の演技者としての出発点となった⁹⁾。彼は可愛がっている小犬たちとともに登場し、賢い犬たちからかわれる演技をすることが多かったが、それは彼にとって楽しい体験であった。クラウンがサーカス芸術において占める役割は極めて重要であるが、幼いNikは、自分自身を観客の「笑い」の対象とし、観客から親しみや共感を引き出すエンターテイナーとしてのクラウンが、観客を驚嘆させるような神業を披露する両親と同じように、サーカスにとってかけがえのない要素であることを、知らず知らずのうちに学んでいた。父Terryが「彼ら（サーカスの観客）は一週間…容易とは思えないような辛い労働を行ってきた。彼らは沢山の金を持ってはいないので、彼らが私たちの演技を見るために入場券を買う決心をしたときには、彼らをわくわくさせるのが、私たちの役目だ。誰もが、ちょっとした逃避を探し求め…誰もが驚嘆することを期待しているので、彼らを驚嘆させることが、私たちの仕事なのだ。」¹⁰⁾とNikに語っており、Nikは、両親と同様、観客を楽しませ、喜ばせたいという思いを、幼い頃から持っていた。

さらに彼は、母方の祖父で優れたサーカス・アーティストであったAlberto Zoppé¹¹⁾の裸馬上の演技の助手もつとめて、観客から拍手喝采された¹²⁾。

Nik が 6 歳であった 1985 年に、家族とともに初めて Niagara の滝を訪れたことは、彼の生涯に決定的な影響を及ぼすこととなる¹³⁾。当時、両親は New York 州西部 Buffalo の Shrine Circus で演技をしており、休日に Lijana と Nik を Niagara の滝へ連れて行ってくれた¹⁴⁾。実は、物心ついた頃から、尊敬する曾祖父 Karl Wallenda が自分を滝へ誘う夢をしばしば見ていた Nik は、夢の中に登場したのと全く同じ滝をまのあたりにして「ここに来たことがある。」¹⁵⁾と断言して父を驚かせた。Nik の夢には、常に、見渡す限り地平線を支配している蹄鉄 (horseshoe) の形をした壮麗な滝を渡るように命令する曾祖父が出現した。

1987 年 8 月、Delilah は、祖父 Karl が 1978 年に墜落死したのと同じ Puerto Rico の San Juan 市で演技をしてほしいと要請され、Hiran Bithorn Stadium でのスカイウォークは見事に成功した¹⁶⁾が、プロモーターに騙され、仕事の報酬を全く受け取れずに帰国することとなり、Puerto Rico の空港で父が激怒し、母が泣いている有様を見たことは、Nik 少年に非常に大きな精神的打撃を与えた¹⁷⁾。彼は、自分たち一家が生き延びられるか否かの危機に直面しているのだと直感して凄まじい恐怖を感じたが、姉から家族が一文無しになったわけではないと諭されて多少は安心したものの、テレビが、サーカスのショーにとって最大の敵となり、サーカスを見に来る人の数が減りつつあるために、両親の仕事が危機に晒されているのだと聞かされ、両親のショーの内容はテレビ番組よりも優れているのに当然の報酬を得られないことに対して驚きと疑問と憤りを感じた¹⁸⁾。しかし、その一方で、Nik のワイヤー上の演技は日に日に向上し、両親は彼の努力を惜しみなく賞賛するとともに、演技を厳しく批判した。彼らは、サーカス以外に博覧会、theme park、amusement park での仕事も引き受け、Nik は母の作ってくれた道化師の衣装を着て、小犬たちとともにクラウンの演技を披露していた。一家は、1970 年代半ばに Karl Wallenda から購入した Airstream 社製の長距離旅行用トレーラーでアメリカ各地を移動した。Lijana と Nik の教育に関してはホームスクール・ティーチャーである母が厳格に指導し、父は、聖書の尊さを子供たちに教えた¹⁹⁾。

Nik が9歳であった1988年にCalifornia州 Sacramento の屋外市開催場で一家は演技を行ない、両親は high wire の演技を披露し、Nik はクラウンに扮した²⁰⁾。

1992年、当時13歳のNikは、New York州 Old Forgeにある同州最大の water theme park として名高い Enchanted Forest Water Safari で high wire artist としてデビューした。このときは一家全員で high wire の演技を披露した²¹⁾。

なお1995年に同じ場所で公演したさい、Nik は high wire の演技用に上空に張り渡されたケーブルまでバランス棒を持たずに傾斜したロープを上って行く途中、地上20～25フィートの地点で、故意にバランスを失ったかのような演技をして1,000人以上の観客を驚かせ、彼としては演技にドラマ性を加えられたと満足していた²²⁾。この頃、彼は以前から家族同志で親交のあった空中ブランコ的一座 Vazquez 家の美しい娘 Erendira に心を引かれた²³⁾。

Nik は high wire の名手として活躍し始めるようになったものの、プロモーター側の契約不履行やサーカス産業の下降状態のために両親が経済難に陥っているのを見て、1994年の夏季休暇に Sarasota 市のダウントウンにあるレストラン First Watch で非常に熱心に働き、マネジャー John Carson は、彼の勤勉さに感嘆した。Nik はサーカス産業が衰退すれば自分が最も愛している high wire の演技ができなくなるのではないかという恐ろしい強迫観念に駆られ、レストランでの肉体労働に励むことで、将来への危惧を拭い去ろうとしていた。彼の働きぶりに大いに満足した Carson は、最終的にレストランのアシスタント・マネジャーの地位を彼に提供した²⁴⁾。Nik は、これ以外にも、近隣の芝刈りをして、現金収入を得ていた²⁵⁾。彼は1995年に、当時 Tabernacle Church の説教師であった Chris Ripo と親しくなり、車のディーラーや住宅建設販売業も営む Ripo は、Carson と同様、若き Nik の指導者となった。こうして18歳になるまでに Nik は、レストランの仕事と古い家屋をリフォームして販売する仕事で24,000ドルを蓄えることができた²⁶⁾。しかし彼は、金儲けに成功したとしても、自分が真に情熱を注いでいる演技の機会が失われていく

ことに苦悩していた。

Nik がハイスクール卒業後の将来の進路について深く悩んでいた時期に、彼の一生を支配することになる極めて重大な出来事が起こった。曾祖父 Karl が率いていた Wallenda 一族の 7 人ピラミッドが 1962 年に Detroit で倒壊して、2 名が死亡、1 名が下半身不随という悲劇が起こったことは、一族にとって忘れがたい事件であった²⁷⁾ が、1997 年の秋に Hamid-Morton Shrine Circus が、このときと同じ建物の同じエリアで、Wallenda 家の人々に 7 人ピラミッドを再現してもらいたいと、Delilah の兄 (Nik の伯父) Tino Wallenda に要請してきた²⁸⁾。この当時、Delilah はレストランの案内係、Terry は大工の仕事をしており、両親が Nik に一家の伝統を引き継ぐことを勧めなかった真の理由は、それでは息子の生活が成り立たないと推測したからであり、現実主義的に考えれば、Nik は John Carson のレストランのジェネラル・マネジャーになることも、Chris Ripo が将来性のある仕事と考えて働いていた消防士の職に就くことも可能であった。Nik 本人は、Lakeland の Southeastern University で神学を研究するか、大学の医学部に進んで小児科医になりたいと考えていた²⁹⁾。しかし「Wallenda 一族による 7 人ピラミッドの再演」の好機が与えられたことは、Nik が一生進むべき道を示すことに繋がった³⁰⁾。すなわち彼が熱烈な情熱をこめて初めて愛したものはワイヤーであり、それに命を賭けることで金銭的代償を得ることが極めて困難だとしても、彼は、そこに誇り高い Wallenda 一族の末裔としての自己の存在意義を見出だしたのであった。Tino Wallenda に率いられた Wallenda 一族総勢 7 名は、半年間の訓練の後に 1998 年 3 月に Detroit で公演を行なった。マスコミは沸き立ち、観客のごく一部には、過去の悲劇が再び繰り返されることを密かに期待する者もいたが、圧倒的多数の一般大衆は、悲劇から 36 年後に、同じ一族が彼ら自身の歴史を書き直すために勇気を奮い起こして演技することに対して声援を贈った。今回の 7 人ピラミッドの構成員は Tino Wallenda, Terry Troffer, Sacha Pavlata, Nik Wallenda, Alida Wallenda (Tino と Olinka の長女), Tony Hernandez (Lijana の夫), そして三層目の頂点を成す Delilah であった³¹⁾。Nik Wallenda は回顧録 *Balance* の

中で、このときの「7人ピラミッドの調和美は完璧であり…歩むピラミッドの動きは詩である。」³²⁾と述べている。全ての演技は4分以内に終了したが、それは、観客の多くが一生記憶に留めるであろう驚異的な4分間であった。彼らは、この離れ業を17日間に38回演じ、ヒーローとしてDetroitを去った。

1999年12月にWallenda一家はCanadaのMontrealのMolson Centerで同時に演技をすることになったVazquez一家と再会した。Detroitでの公演後Sarasotaで久しぶりにErendiraに会ったNikは、自分の一族と同様に長い歴史に支えられ、芸術的才能に恵まれているにも関わらず、彼の一家以上の貧困に耐え忍んできたVazquez家の娘Erendiraの美しさと知性に、これまで以上に魅了され、彼女へのひたむきな愛情で目も眩むほどであった³³⁾。

Nikは12月19日に、是非とも自分たちの7人ピラミッドの演技を見に来てくれるようErendiraに頼んだ。そして演技が終わった後で、彼は地上30フィートの高さに張り渡されたワイヤー上に再び戻ってひざまづき、視線をErendiraに定めると、ワイヤレスマイクを通して、彼女に自分の妻になってくれるよう求婚した。彼女が“Yes.”と答えると、観客18,000人は賞賛と祝福の拍手を二人に贈った³⁴⁾。この独特の求婚のしかたは、どんな事にでも真正面から取り組もうとするNik Wallendaの率直さを反映するとともに、男性に対して根強い不信感を抱き続けてきたErendiraに対して、絶対に自分は彼女を裏切らないことを神と公衆の前で誓ったものと解釈される。このワイヤー上のプロポーズから1週間後に二人は裁判所で簡素な式を行なったが、それは、派手な祝賀パーティを開くための資金が全く無かったからである。彼らは翌2000年の1月に教会で結婚式をあげた³⁵⁾。

若夫婦は経済的事情からNikの両親の家に住み、長男Yanniも同居した。Nikは、時折得られたあらゆる演技契約に加えて、週40時間、レストランFirst Watchで働き、懸命に生活を支えていた³⁶⁾。彼とErendiraは、夫婦一組で公演できるような演技を宣伝するためのパンフレットを作成したが、どこからも出演の依頼は来なかった。

しかし2001年に、Erendiraの父が、人々をあっと言わせるようなイヴェ

ントを探している日本のプロモーターがいるとの情報を Nik に伝え、彼は、日本の岡山県倉敷市の theme park チボリ公園 (Tivoli Park) が、世の人々を驚嘆させるようなイベントを探し求めていることを確認した³⁷⁾。彼は「世界初の四層から成る 8 人ピラミッドの演技を公開する条件で 6 週間の公演を契約し、4 週目の初めまでは 7 人ピラミッドを公開し続けて観客の関心を高め、それから 8 人ピラミッドの演技を行なうというドラマティックな構成の中で、世界記録を打ち立てたい」³⁸⁾ と、プロモーターを説得した。チボリ公園では、人間ピラミッドのほかに、Lijana, Erendira の父 (Vinicio Vazquez), Erendira によるアクロバット、Nik と Erendira による sway pole などの演技も公開されることとなった。そしてプロモーターは、Nik が要求した報酬 20 万ドルを支払う事に同意した³⁹⁾。この年の夏の Wallenda 一族日本公演の責任者は当時 22 歳の Nik Wallenda で、これが彼が独力で結んだ最初の契約であった。彼は、公演を成功させるために両親の協力を求め、母はアーティストとして、父は演技のトレーニングのために息子を援けることに同意したが、一族の長老 Tino Wallenda は、良く言えば進取の気性に満ちているが、酷評すれば「成り上がりもの」の甥がリーダーである公演に加わるのを断わった。さらに Tino は自分が指導者として一族を率いて築き上げ、この年の 2 月 20 日にギネス記録を取得した、三層から成る 8 人ピラミッドで地上 25 フィートを渡るよりも、甥のリーダーシップのもとで完成された四層から成る 8 人ピラミッドの方が質的に優れた⁴⁰⁾ 作品であり、自分が甥のもとで働くという屈辱には耐えられなかったのだろう。

2001 年 8 月 4 日、Nik Wallenda, Jonathan Taylor, Mike Duff, Tim Carlson が第 1 層、Lijana Wallenda-Hernandez と彼女の夫 Tony Hernandez が第 2 層、Delilah Wallenda Troffer が第 3 層、(Delilah の肩に乗った) Vinicio Vazquez (Nik の妻 Erendira の父) が第 4 層を成す 8 人ピラミッドは、6 分間で高さ 30 フィートを渡り、これは Nik Wallenda にとって最初のギネス世界記録となった⁴¹⁾。ショービジネスの実態に精通していた父 Terry はプロモーターからの支払いについて懐疑的であったが、幸いにも日本のプロモーターは当初の

約束通りの額を Wallenda 側に渡してくれた。しかし一座の人々への支払いと必要経費を差し引くと、僅かな金額しか Nik の手元には残らなかったが、彼は「Wallenda 一族、特に Nik Wallenda が、偉大な Karl Wallenda の伝統を発展させているのだ」⁴²⁾ という誇りに満たされた。

とはいえ、ギネス記録を持つことによってヒーローでいられる期間は、エンターテインメント業界ではごく短期間でしかないことを、若い Nik は思い知らされた。経済上の困窮状態は依然として変わらず、国際劇場舞台雇用者連盟 (International Alliance of Theatrical Stage Employers) のメンバーとして、Florida 州 Tampa の大競技場で開催される世界的なスターのショーの舞台装置設営のための不定期な労働に従事するか、レストラン First Watch でのコックの仕事以外に収入はなかった。(Carson は勤勉な Nik をジェネラル・マネジャーにしてやりたいと思ったが、既に別の人が、この地位を占めていた。) このような窮境に陥っていた Nik に親友 Joseph Mascitto が 4,000 ドル融資してくれたので、約 4 万人が出席する International Association of Amusement Parks and Attractions (IAAPA) の見本市の大会で、自分たちのアトラクションを紹介するためのブースのスペースを借りることができた⁴³⁾。

2001 年には次男 Amadaos が誕生し、Nik は貧困の中でも家族が増えたことを喜んだ。一方 IAAPA に出展できたために彼は Ohio 州 Cincinnati の amusement park である Coney Island その他の場所での夏期 3 か月間の出演契約を結ぶことに成功し、傾斜したケーブル上でオートバイのスタントを行なったり、Erendira とともに sway pole の演技をすることができた⁴⁴⁾。そして 2003 年には愛らしい長女 Evita が誕生し、Nik は自分が夢見た家族を持てたことを神に感謝した。その後、彼と Erendira は North Carolina 州 Wet 'n Wild Emerald Pointe Water Park や California 州 San Dimas の water theme park である Raging Waters での演技を行なった。彼は Sarasota に戻ると、以前と同様に国際劇場舞台雇用者連盟のメンバーとして大規模なショーの索具の装備を行なったが、high wire や画期的なスタントを実施する機会は、なかなか訪れなかった⁴⁵⁾。

2006年に McDonald がプレミアム・ロースト・コーヒーを新発売したので、high wire の演技によって販売促進をはかることを望んでいた⁴⁶⁾。Wallenda は、8月30日に Detroit のダウンタウンの Hard Rock Café の上空（地上 80 フィート）を舞台とし、2台のクレーンの間に長さ 125 フィートのワイヤーを張り、姉 Lijana と自分が、それぞれのクレーンの頂上からワイヤー上を歩き、中央の地点で腰を下ろしてコーヒー茶碗をかかげて味わっている動作をした後に姉の体を乗り越え、二人が出発点の反対側に向かって歩き、クレーンからロープに乗って降りるショーを企画した。ところが、姉のクレーンが故障を起こし、彼女を下ろすはずのロープが動かなくなったので、Nik はクレーンの操縦者に適切な指示を与えて、うまくロープを作動させ、恐怖におののいているワイヤー上の姉の救出に向かい、彼女の体を掴んでロープの所まで連れて行き、二人は無事に着陸した。新聞は、弟が姉を救った物語を大々的に取り上げ、Nik は “Hero of the High Wire” と称えられた。彼は、機械工学に関する父の天賦の技術的才能を幸運にも継承しており、スタントを支える索具の装備についての専門知識を身に付けていたために、上のような緊急事態をコントロールすることができた⁴⁷⁾。

このように Nik は一家を養うために懸命に努力していたが、義理の両親との生活に息詰まっていた Erendira は、Tampa での大掛かりなショーの設営のための長時間の辛い労働を済ませて帰宅した夫に子供たちの世話を任せて、ある晩、ダンスクラブへ出かけてしまい、真夜中まで戻らなかった⁴⁸⁾。彼女は、夫の権威主義的傾向に我慢できないと常日頃から言っていたが、我々日本人の目から見れば、Nik は極めて誠実な家庭人として映り、家族を扶養するために奮闘している父親が一家の指導者であることに対して Erendira のように激しく非難する女性は稀であると言わざるを得ない。また Nik Wallenda は、自分を育ててくれた両親が財政的にも自分の援助を必要としているのだと妻に説いたが、Erendira は、夫婦と子供たちだけの生活を望み、とりわけ自分の行動の自由が束縛されるのを嫌っていた⁴⁹⁾。

2007年から2008年にかけて、Ringling Brothers Circus は、Nik Wallenda

の長年の親友で、偉大な道化師でアクロバットの達人 Bello Nock を主役とした “Bellobration” を開催することとなり、そのハイライトとなる “Wheel of Steel” は（連結されているために）二つの車輪であるかのように見えた四つの車輪が途中で突然分かれるという趣向であった。このショーは、Bello Nock と Nik Wallenda がそれぞれの車輪の中や外で全身を駆使した巧みな表現を行なって大好評であり、四重車輪の製作には、Nik の父の義理の兄で NASA の主任冶金技師であった Timothy Stephenson が尽力した⁵⁰⁾。そして Erendira が、美女のハートを射止めるために 2 人の男が危険な演技を行なって勇気を示すというストーリーを、ショーの背景とするよう Bello に勧めた結果 “Bellobration” には彼女も出演し⁵¹⁾、Bello Nock とともに空中 68 フィートで sway pole を披露した。しかし Nik Wallenda は “Bellobration” がいかに絶賛されようとも、彼自身のアーティストとしての栄光につながるものではないと察知して、契約の期限が切れたとき、その後も Ringling に留まっていたいと決して思わず、彼個人の演技によって世の人々を驚嘆させるイベントでの成功こそが、彼自身の目標に他ならないのだと再確認した⁵²⁾。

“Bellobration” が開始される以前の 2006 年の冬、Nik Wallenda は現代のフーディーニ Houdini と呼ばれるマジシャン David Blaine のテレビ特別番組の executive producer をつとめていた Shelley Ross と New York の Lincoln Center の近くで会い、彼女の夫でマネジャーの David Simone、その同僚の Winston Simone のようなエンターテインメント業界に精通した人々と知り合う機会があった。Nik は、その後 Simone らとしばしば話をするうちに、彼自身を取り上げるテレビ特別番組の構想を思いついたら連絡するように言われ、彼が幼い頃から、夢の中で曾祖父 Karl が、Niagara の滝を渡るよう命じていたのと同様、炎に包まれた偉大な峡谷の上を渡ることも示唆していたのを無意識のうちに思い出し、Grand Canyon Walk の放映について、話をもちかけた⁵³⁾。Winston Simone は、そのアイデアを支持し、William Morris Agency が彼の番組の一括制作を引き受け、Nik は ABC, NBC, CBS, FOX の管理職と会見した。NBC が放映することがほぼ決定したと思われたとき、この会社の管理体制の激変により、

特別番組担当者が放逐され、経費節減のためにプロジェクトは延期されてしまい、既に自分の周囲の人々に自慢していた Nik は茫然となった⁵⁴⁾。

だが彼は、この打撃から直ちに立ち直り、新しいアイデアの実現に没頭し、2008年10月15日に、New Jersey州 New Arkの Prudential Center における“Bellobration”の最終公演のプロモーションとして、地上135フィートの Prudential Center とクレーンを結ぶ235フィートの長さのワイヤー上でスカイウォークと自転車による横断を行なった⁵⁵⁾。この演技は Shelley Ross の後援により、NBCの情報・ニュース番組 *Today (Today Show)* で実況放送された。Wallenda は、スカイウォークの前に妻と3人の子供を抱き締めてキスをした後で、45ポンドのバランス棒を握り、ワイヤー上に踏み出した。このときの彼の心境は *Balance* の中で次のように淡々と述べられており、素朴な美しさにあふれた印象深い場面である。

空に雲は無く、10マイル彼方に Manhattan の摩天楼が見える。そして Empire State ビルと Chrysler ビルが、朝の太陽の光を受けて輝いている... 空も心も澄み切っている。少年の頃、ワイヤーウォークをしていて、気を散らす物と遭遇した場合、どのように精神を集中するかを教えるために、両親が松笠を頭上に投げつけた遠い昔の思い出が胸に蘇る⁵⁶⁾。

彼は難なくワイヤー上を進み、中間地点で腰をおろし、携帯電話で NBC のスタジオに電話をかけて、スタッフとの会話を楽しんだ。しかし、往路のワイヤーウォークの終了直前に一瞬足を滑らせたが、平静にクレーンに到達した後、Bello Nock から（タイヤとハンドルを取り除いた）自転車を受け取った。Nik には自然なバランスを保ちながら復路を進んで行く確信があったが、ケーブルが上向きに傾斜しているゴール間近の地点で自転車がスリップし、これまで考えても見なかったことであるが、ワイヤーから墜落する恐れがあると自ら感じる危機に遭遇した⁵⁷⁾。彼は数秒間、車輪を後退させてから軌道に戻り、ゴールに到達して、家族を抱き締めた。歴史上、最も高い地点に張り渡された

最も長い距離のワイヤーを渡る記録を達成した彼は、二つ目のギネス記録を獲得した⁵⁸⁾。なお所要時間は3分17秒であった。彼は、この演技の終了直後のインタビューで、自分の次の目標は翌年（2009年）の春にGrand Canyonを渡ることであり、既にそのための認可を得ていると、強調している。それを聞いて笑っているマスコミ関係者が彼の言葉を本気で受け止めていたかどうかは疑わしいが⁵⁹⁾、並外れた野心家のNik Wallendaが、計画を実行するために着々と準備を進めていたことは明らかであろう。

2009年にNik Wallendaは、単に離れ業の記録を並べるのではなく、それらを結合させるストーリーの必要を感じ、high wireの上を歩く演技を発展させて、アメリカ各地を横断するショーを実現させようと思いついた⁶⁰⁾。そしてCalifornia州のKnott's Berry FarmからNorth Carolina州Carowindsに至るまで、全米に数多くのtheme parkやamusement parkを所有しているCedar Fair Amusement Companyがスポンサーとなり、*Today Show*の報道を通じてスターの座を築いていたNikの演技はCedar Fair側にとっても優れた宣伝効果があったので、“Walk Across America Tour”と題するショーとして、同年6月から8月まで実施されることとなった。開催地は① Worlds of Fun (Missouri州Kansas City) ② Knott's Berry Farm (California州Buena Park) ③ California's Great America (California州Santa Clara) ④ Valleyfair (California州Shakopee) ⑤ Canada's Wonderland (CanadaのOntario州Vaughan) ⑥ Cedar Point (Ohio州Sandusky) ⑦ Dorney Park & Wildwater Kingdom (Pennsylvania州Allentown) ⑧ Kings Dominion (Virginia州Doswell) ⑨ Kings Island (Ohio州Mason) ⑩ Carowinds (North Carolina州Charlotte) の10箇所であった⁶¹⁾。

上記の“Walk Across America Tour”でKings Islandを訪れたとき、Nikは、パークの正門からEiffel Tower（エッフェル塔）のレプリカの頂に近い所までのスカイウォーク（空中262フィート、距離800フィート、所要時間25分）を8月15日に成功させ、彼にとって、これまでで最長距離のワイヤーウォークとなった。Kings Islandでは1974年に彼の曾祖父Karlが、塔の中ほどまで

のワイヤーウォークを行なった記録があるが、Karl の時代には不可能であった高所への索具の装備を父 Terry が完成させたので、Karl の伝統を自分が継承・発展させているのだと Nik は主張した⁶²⁾。なお、2008 年 7 月には Nik の義理の伯父 Rick Wallenda が、塔の 75 フィートの位置まで、距離 2,000 フィートのワイヤーウォークを祖父を追悼するために実施していた⁶³⁾。

2009 年 7 月 3 日、Nik は Pennsylvania 州 Pittsburgh の Allegheny River のボートレース Three Rivers Regatta でのイベントとして、河の上空 200 フィートから出発し、1084 フィートを約 25 分間で渡った⁶⁴⁾。これは彼にとって、これまでで最長距離のワイヤーウォークとなった。Wallenda 側は、もともとオイルが塗られていないケーブルを注文しておいたのだが、到着したのは塗られた物であり、風雨の影響も案じられたが、イベントに劇的要素が加わると感じた Nik は、ワイヤーシューズで実施できると予想した。ところが、クレーンの頂上から出発する段階に来たときに、伯父の Mike は Nik のワイヤーシューズを持参するのを忘れてしまったと気づいて蒼白になったが、牽引摩擦力が増すと思った彼は、靴下を履いて実行した⁶⁵⁾。Philippe Petit は High Wire に関する古典的名著 *On the High Wire* の中で、厚手の靴下であればワイヤーシューズの役は果たせると述べているが⁶⁶⁾、たとえ彼の実力をもってしても全くグリス抜きをしていないワイヤーを靴下だけで渡のように突然要求された場合に Nik Wallenda ほど冷静に対処できたか定かではない。風の唸りを聞きながらワイヤー上に踏み出した Nik は数分後に立ち止まって跪き、自分の演技を見るために雨の中を出てきてくれた眼下の群衆に対して感謝する唯一の行為として、彼らに手を振った。風が出て来たのでワイヤー上で休止を余儀なくされたが、自然の力と闘うのではなく、自然の力とともに体を屈め、それを受け入れて抱擁した。この悪条件のワイヤーウォークの中で、自然の力に自分をリードさせ、自分の魂に静かな力を与えさせようとしたことは彼の人生にとって非常に意義深い経験であったと思われる。雨のために靴下はぐしょ濡れになったが、彼はその湿気が、より多くの摩擦力を自分に与えてくれる天からの賜物だと理解し、全ての否定的要素を肯定的要素に転じられると信じ

た⁶⁷⁾。

ところで“Walk Across America Tour”は、一連のスカイウォークの公演であったので、Erendiraの演技の機会は無く、Nikはショーのプロモーションの必要上、都市から都市へと妻を連れずに飛行機で移動し、彼女は義父Terryとともに索具運搬トラックで移動することとなった。十分な資金があれば愛妻を同行する余裕もあったはずだが、Nikとしては組織の構成員として彼女を扱わざるを得ず、次第に妻のストレスは高まっていった。

2009年7月26日、NikはCedar Fair Amusement社の旗艦を成すtheme parkであるOhio州SanduskyのCedar Pointで、パーク内のロープウェイのケーブル上を靴下だけを履いて渡り、バランス棒を持ったまま、ケーブルの上で仰向になるという妙技を披露した⁶⁸⁾。その後で、Nikはラジオ番組のインタビューのためにSanduskyの放送局まで妻とともに行ったが、彼女はスタジオの中に入らず、一人で車の中でラジオを聞いていると主張し、Nikだけがインタビューを受ける結果となった⁶⁹⁾。番組の中で、たまたま女性キャスターがNikにバランス棒の長さについて尋ねたとき、彼は「それは個人的な質問なので、放送されていないときに尋ねるべきでしょう」⁷⁰⁾と答え、自分としてはウィットを示したつもりであった。ところがNikが女性キャスターに言った冗談が不適切なものであったとErendiraは激怒し、軽い卑猥な冗談とは認めなかった。極めて客観的に考えれば、サーカス界においてバランス棒に関することは綱渡り師にとっては極秘の職業上の秘密である⁷¹⁾ので、Nikとしては余り触れられたくないというニュアンスであったように感じられるが、既にErendiraは極度の興奮状態に陥っていたようである。逆境から身を興したNik Wallendaが野心に燃える余り、独善的になりがちで、深い洞察力にかけた言動に傾くこともあったのは事実であるが、もともと熱情的で行動的な性格のErendiraは、自分の周りの全ての人間を思いのままにコントロールしようとする夫にも義父にも耐え切れなくなり、遂に1,300マイル離れたSarasotaの家に単身帰宅してしまった⁷²⁾。2カ月間の強行軍のアメリカ横断ツアーの間、幼い3人の子供たちはNikの母が世話していたと類推されるので、

Erendira を進歩主義的なキャリアウーマンと見ることもできるが、日本の伝統的な価値観から考えれば、夫とともに仕事をする必要が無い僅か数か月間であれば、子供たちの養育を優先して、家に留まっている方が、妻（母親）としては自然だったように思われる。

2009 年の夏に超絶的なスカイウォークを 15 回も成功させ、ワイヤー上のバランスを保つエキスパートである男 Nik Wallenda は、あらゆる物の中で最も困難なワイヤーウォークである「人生と言うワイヤーウォーク」において不均衡を余儀なくされ、「何千人もの人々が自分に拍手喝采してくれるのに、唯一人喝采しないのが、自分にとって最も重要な人物すなわち妻である」という著しく均衡を欠いた現象が起こってしまった⁷³⁾。彼は、妻の愛情を失うのではないかと考えると深く苦悩した。

“Walk Across America Tour” が終わって Sarasota に帰宅した Nik は、自分の「狂信的排他主義、男性的権威主義」「女性への性差別主義」を反省して妻に詫びたので、危機的状況にあった夫婦喧嘩は小康状態となった。Nik は、いかなる過ちも許されない極めて危険な仕事に携わり、自分のもとで働く全ての人々に過酷な要求をし続け、彼らをコントロールする立場にある自分が、家庭では、無限の忍耐、配慮、愛情を持った夫・父親になるよう態度を切り換えるのが、いかに困難であるかを思い知った⁷⁴⁾。

2010 年 2 月 4 日、Nik Wallenda は、Sarasota で One Watergate Condominium の屋上から Ritz-Carlton Hotel の屋上まで、地上 200 フィート、距離 600 フィートを 12 分間で渡り、この模様は全米にテレビ放送された⁷⁵⁾。そして 2 月 12 日から 28 日まで、Circus Sarasota で、7 人ピラミッドを含む演技を一族で公開した。ところが、Florida 州 Fort Myers での出演契約が延長されていたとき、彼はテニスをしている間に転んで、くるぶしの骨にひびが入り、ワイヤーシューズの紐が結べないほどに、くるぶしが膨れあがってしまった。ギプスが必要だと医者から告げられたが、彼の代わりに 7 人ピラミッドの演技を務められる演技者がいなかったため、Detroit で 7 人ピラミッドが倒壊したときの曾祖父の反応について思い出し、彼同様に怪我をものともせず

サーカスに出演すると決意し、幸いショーは順調に進み、くるぶしは速やかに治っていった⁷⁶⁾。

さて、Nikが“Walk Across America Tour”の仕事でOhio州 Masonに滞在していたとき、彼をテーマとしたドキュメンタリーを一括制作してDiscovery Channelに売り込もうとしている映画制作会社からの連絡があり、NikとDiscovery側が何度も会合を重ねた結果、Discovery Channelは、6作分の制作費を出資する事に同意した⁷⁷⁾。

Discovery Channelで放映されるシリーズについて、まずBahamaのAtlantis Paradise Island Resortで1日に2種類の離れ業を披露することとなり、Nikは2010年8月28日にBridge Suiteを自転車で渡り、三つ目のギネス記録を獲得した⁷⁸⁾。そして翌々日の8月30日には、1日に2種類の離れ業を披露することになり、海上260フィートに張り渡された長さ100フィートのワイヤーを自転車で渡り、4つ目のギネス記録を獲得した⁷⁹⁾。そして夕方には、このリゾートのシンボルであるWest TowerとThe Cove Atlantisを結ぶ約2,000フィートのワイヤーウォークを実施する予定であった⁸⁰⁾。ところが夕方のショーの開始30分前に、父Terryが意識不明となり、イベントを中止するかどうかの決断に迫られるが、Nikは、父も自分がスカイウォークを実施する事を望んでいるだろうと思って決行した。このときの彼の心理描写を描いた部分には、彼の人間性が如実に表われている。

鮫やバラクーダが泳いでいる海の上を渡って、この二つの塔の間でスカイウォークをするであろうという事実や、水平線に雷雲が近づきつつあり、彼方では稲妻の電光が空に閃いて風が激しく吹き、天候が悪化していることが問題なのではなく...父の容体、父が地上から見守ってくれない事実、私は懊悩した...しかし神は森羅万象の中におられた。神は私の血管を巡る血液の中にもおられた。神は、私の心の興奮状態の中にもおられた。神は、私の眼の全ての瞬きの中に、私の全ての呼吸の中に、私の全ての歩みの中におられた。神は、私を見つめている全ての人々の創造主であり、(私を殺すか

も知らない) アカエイやピラニアの創造主であり、優れた建築家であり、優れた詩人にして画家であり、全ての生命ある靈魂に才能を吹き込んだのと同じように、私に才能を吹き込んで下さった愛情深い主であり、私に信仰心を与え、濡れた 2,000 フィートのケーブルの上で、私がこのスカイウォークをすることをお許し下さった父であった。そこで、打ちかかる風と絶え間なく降る雨を物ともせず、父のことが気がかりであるにもかかわらず、私をワイヤーから振り落とすかもしれない全ての自然の猛威にもかかわらず、私はバランスを維持した⁸¹⁾。

上の引用文から思い起こされるのは、アメリカの国民的詩人 Walt Whitman の詩句である。Wallenda は洗練された文学的表現を用いておらず、荒削りな文体ではあるが、我々は、彼の誠実で勇壮な精神を窺い知ることができる。彼のワイヤーウォークに優雅さや繊細さを見出だすことができないとしても、剛毅さや理想主義、博愛の精神を読み取ることができ、そのことは、上の引用文からも明らかである。そして、彼がワイヤー上においても、また生活の面でも、心身のバランスを保つことができたのは、敬虔な信仰が常に彼を支えたからである。Nik Wallenda が自己の体で表現する芸術とは、高踏的なものではなく大衆的なものであり、多くの俗っぽさを持っているが、その演技が人々の心に生きる力と偉大な夢を与えてくれることにおいて、彼が一流の芸術家であることは否定できない。

Nik は 2,000 フィートのケーブルを事実上は小走りで歩きながら、父が健康を取り戻すことを祈り、妻と子供たちの幸福を祈り、自分を見つめている全ての人々のために祈り、日常生活の疲労と心労から解放されて生気を取り戻し、新たな靈感が得られることを望んで Paradise Island を訪れた全ての人々のために祈り、勇気と信仰に支えられた演技によって、自分が人々に靈感を与えられるように、そして、彼自らも、靈感が得られるように祈った。彼が high wire に命を賭ける目的とは、自らの全身全霊を込めた演技を見つめる人々に靈感を与えるとともに、彼自身も、その演技から靈感を得て、人間として、ま

た芸術家として、より偉大な存在となって行くことであろう。

ずぶぬれの状態でスカイウォークを終えた彼は、救急車で病院へ運ばれた父と携帯電話で話すことができ、暑さで疲労困憊しただけであったので、息子がイヴェントを中止しなかったのを喜んでいて、安心するとともに非常に幸せになり、父が健康を取り戻したことを深く神に感謝した。

2011年4月15日、NikはCalifornia州Santa Cruz Beach Boardwalkで運行中の大観覧車の上を歩く豪快なスタントを行ない⁸²⁾、4月16日には同地で妻Erendiraを車の下にぶら下げて、Nikがオートバイでワイヤーを登り下りし、ワイヤー上を旋回するMotorcycle High Wireを実施した。

2011年4月29日、午前11時に、彼はNew Jersey州Atlantic CityのTropicana Casino and Resortのショッピングセンター(Fiesta Plaza)の中で高さ45フィートの位置に張り渡したワイヤーを用いて、距離100フィートのワイヤーウォークを行なった⁸³⁾。彼はウォーク中に体を屈めて膝をつき、ワイヤー上に仰向けになってから起き上がり、後退と前進を繰り返した。彼は楽しい気持ちで、この演技を行ない、ショッピングセンターの天井に空が描かれているのを見て、自分も空まで行きたいような気がしたそうである⁸⁴⁾。彼は買い物をしている人たちの生活に輝きを与え、帰宅した後で彼らが友人や隣人達が自分の見たものについて語ってくれることを望んでいた。そして同じ日の午後4時に、彼は23階建てのTropicana Casino and ResortのSouth Towerの屋上でWheel of Deathの演技を行なった⁸⁵⁾。彼は車輪が12回転する間は中にいて、それから車輪の頂上で縄跳びをした。そして演技の一部では目隠しをしていた。彼は最も高い場所でWheel of Deathを演技したことにより、5つめのギネス記録を獲得した。

さて、WallendaがTropicana Casinoのショッピングセンターを横断するタイトロープを開始する前に、彼は懐疑的なリポーターから、神に挑むようなことを敢えてするのかと尋ねられた⁸⁶⁾。彼は全く否定して、愛する神に挑むような必要はなく、自分は最も道理に適った観点から仕事をしており、最高級レベルの工学技術の職業に携わっている伯父に恵まれているのだと返答した。さ

らに「あなたは死に挑んでいるのではないのか？」と尋ねられたとき、彼は「私は生を肯定している。不可能と呼ばれていることを誰かがしているのを見ると、人は、自分もまた不可能なことを試みようという靈感を吹き込まれるものだ。私は撤退するつもりも諦めるつもりもなく、Never Give Up! というスローガン掲げて行動している⁸⁷⁾。」と述べた。記者から、彼の危険な演技の成功を望んでいる観客ばかりではなく、大災害を目撃するために来ている観客もいるのだ、と言われるたとき、Wallendaは「圧倒的多数の人々は、私に声援を贈っているように感じられる。彼らは、私が落下することを望んではいない。彼らは私に成功してもらいたいのだ。⁸⁸⁾」と主張した。Wallendaは、誇り高いアーティストとして、自分の極めて危険な演技を次のように定義している。

「私は死を見つめてはいない...私の演技の目的は否定的なものに挑むことではなく、肯定的なものの存在を明らかにすることだ。ワイヤーウォークを行なっているときや、車輪の上にいるとき、自分の心は全く異なる場所にいる。私は、自分の演技を体で表現する詩と見なしている。それは芸術的表現であり、精神を高揚させるものだ...私は自分の行なっていることが、平凡でありうる人生に一種の美を添えるようなものであることを望んでいる。私がこれらの離れ業を行なっているとき、私の精神は飛翔する。神によって靈感を与えられた人間の精神は飛翔することができる。」⁸⁹⁾

2011年6月4日、Nik Wallendaは、Puerto RicoのSan Juan市のConrado Plaza Hotelの2つのタワーの10階を結ぶ空中121フィート、距離135フィートのワイヤーウォークを、1978年にここで落下した曾祖父Karlを追悼するために、当時58歳の母Delilahとともに実施した⁹⁰⁾。曾祖父の死を、これまで全世界の無数の人々がYouTubeで見ているはずだが、彼自身はワイヤーウォークで落下した人として記憶されるのではなく、「創造的で大胆不敵なエンターテインメントへの生涯の情熱によって王国を築いた人」⁹¹⁾として人々に永く記憶されたいはずであるので、Nikは、high wireの伝統が引き継

がれ、Wallenda 一族が決して何のものにも屈しないことを世界に示すために追悼公演を実施し、過去の歴史が否定的なものから肯定的なものに修正されるべきだと考えたのであった。

この公演をマスコミが大きく取り上げ、San Juan 市とホテルは、Nik のスカイウォークを彼らのビジネスへの恩恵とみなした。一大イベントの前に Wallenda 一行は、Karl が最後のワイヤーウォークの出発点とした建物の屋上に記念銘板を置き、百個の白い風船を空に飛ばした。その場所を去る前に、Delilah は、突然、Karl の孫娘として、息子とともに、このワイヤーウォークを行ないたいと述べて、Nik を驚かせた。母の年齢と、彼女が半ば現役を退いていることを考慮し、母の身の安全に配慮しながら演技することで集中力が散漫になり、彼自身も危険に陥るかも知れないと Nik は考えたが、母の情熱に打たれ、一生に一度の大きな行事を母とともに行なう決意を固めた⁹²⁾。当時バランス棒もワイヤーシューズも衣裳も持っていなかった母のために Nik は必要なものを揃えた。Nik のバランス棒は 45 ポンド、Delilah のバランス棒は 25 ポンドであった⁹³⁾。向かい合った建物の屋上からそれぞれ出発した彼らの頭の中にも心の中にも Karl Wallenda がいた。ふたりは反対側からスタートして中程で会い、ワイヤーの上ですわっている Delilah を Nik が乗り越え、その後、それぞれがワイヤーウォークを続けた。Karl が落下した地点で、Nik はワイヤーの上に跪き、曾祖父の霊に捧げる投げキスをした。このイベントが終わったとき、彼は偉大なことを成し遂げた到達感と同時に、より偉大な仕事すなわち Niagara を渡る必要性をも感じた⁹⁴⁾。2011 年 6 月 10 日、Nik は Missouri 州 Branson の theme park である Silver Dollar City で、地上 250 フィートで静止しているヘリコプターに取り付けられた空中ブランコに掴まって両手で体を支え、次に 1 本の腕だけでぶらさがり、次いで両足だけでぶらさがり、最後に歯だけでぶらさがって、6 つめのギネス記録を達成したが、彼の首は、その後数週間痛んだ⁹⁵⁾。

上記と同時に Nik は Silver Dollar City で Wallenda Family Circus を公演し、ワイヤー上を自転車で渡ったが、彼と Jonah Finkelstein との肩を連結してい

るショルダーバー上の椅子の上に、演技者として新たな自信を得た母 Delilah が立つショーが披露された⁹⁶⁾。

Nik Wallenda が物心ついたときから、曾祖父は、しばしば彼の夢の中に現われ「偉大な滝」か「炎の溪谷」を渡るよう彼に命じ続けており、6歳のとき両親とともに Niagara の滝を見て、夢の中の滝がそれであったと気づいたものの、彼自身が現実に Niagara を渡ることが本当に可能であると信じていたとは思えない。

しかし彼が2010年10月に Florida 州 Orland で開催された International Association of Amusement Parks and Attractions の見本市のブースにいて、新しい出演契約を求めているとき、Niagara の滝一帯の再開発を目的とする会社 Niagara Falls Redevelopment の重役 Roger Trevino がこの地域に導入できるアトラクションについて考えながら、偶然にも、彼に、今まで Niagara の滝を渡ることを考えたことがあるかと尋ねたのであった⁹⁷⁾。Nik は驚天動地の思いであったが、これが彼の長年の夢を達成させられる政治的影響力を持った人間との最初の接触となった⁹⁸⁾。

冷静な現実主義者であった父は、別々の政治的体制を持つアメリカ合衆国と Canada という二つの国の合意が必要な Niagara の滝渡りは実現不可能であり、米加両国の総勢数十人もの政治家を説得するのは至難の技だと息子に言い聞かせた。さらに奇跡的に政治的係争点を解決できたとしても、Niagara の滝にケーブルを装備するのに必要な見積額 100 万ドル以上の資金を提供してくれるスポンサーを見つけられるかどうか疑問視していた⁹⁹⁾。Nik が Discovery Channel が出資するだろうという楽観的予想を立ててマネジャーの Winston Simone に相談すると、彼は撮影された内容のテレビ放送時の視聴率しだいであろうと答えた¹⁰⁰⁾。シリーズ最初のエピソードは Atlantis Paradise Island Resort での演技を取り上げたものであったが、Nik が自分のもとの作業をしている人々に厳しい指令を与えている場面が強調された構成となっており、彼自身の意向を確認することなく放送された。彼は自分に短気の傾向があることを悔やんでいたが、番組の中で描かれているほど頻繁に感情を爆発させるわけで

はなく、視聴者の関心を得る目的でテレビが真実と称するものを作り出すために自分が翻弄されたことを知らされた。本来6作品から成るシリーズであり、第1回目の放送は高視聴率であったが、その後の彼の演技を主題とした作品を放映することをDiscovery側は計画していないことが明らかになった¹⁰¹⁾。以前にGrand Canyon WalkについてNBCが非常に乗り気であったのに社内の管理体制の改変のためにテレビ特別番組が実現されなかったことに続き、今回も、カメラに自分の全ての行動を追って報道してもらいたいという願望が裏目に出たので、我々はマスコミというものの実態を知らなかった彼のナイーブさを察知できる。

かくしてDiscovery Channel側の都合により、Puerto Ricoで母とともに曾祖父の霊に捧げるために行なったスカイウォークをはじめ、Nik Wallendaが単なるスタントではなく一個の芸術とみなしてきた演技全てがテレビ放映されないこととなった以上、DiscoveryにNiagaraを渡るための資金提供を期待できないので、他のスポンサーが必要となった。母は息子が再び悲しみに暮れるのを見たくなかったし、父は非現実的な試みだと批判したが、Nikは、Niagaraの滝を渡るとは自分の意志を超えた神の意志であると信じ、曾祖父が自らの壮大な計画を追求したのが正しかったのと同様に、彼がこの偉業を試みるのは正しいことだと考え、自分がこの情熱を誠実に追求できるように神に祈った¹⁰²⁾。

彼は、アメリカ側のGoat Island（或いは、より小さなLuna Island）から出発してCanadaのTable Rockの近くまで、Niagara河の深さ200フィートの峡谷を横断してケーブルを張る計画を立てた。ワイヤーウォークの正確な距離は550メートル（1,804フィート5インチ）であった。ワイヤー上の彼の右手にはAmerican Falls（アメリカ滝、落差21メートル～34メートル・幅260メートル）があり、左手には巨大なHorseshoe Falls（カナダ滝、落差53メートル・幅670メートル）があるだろう¹⁰³⁾。



幼き日の Nik と
姉 Lijana



13 歳の Nik の high wire artist としてのデビュー (1992 年 New York 州 Old Forge)



Wallenda 一族の7人ピラミッドの演技 (1998年 Detroit)



岡山県倉敷市チボリ公園での
8人ピラミッドの演技
(2001年世界記録樹立)



2008年 New Jersey 州
New Ark

2009年 Pennsylvania 州
Allegheny River



2010年 Bahama の
Atlantis Paradise Island Resort



2011年 Puerto Rico の San Juan 市での Nik と母 Delilah の演技
(1978年にここで落下した曾祖父 Karl を追悼するための公演)



ヘリコプターの下での Iron Jaw の演技
(2011年 Missouri 州 Branson)

【注】

- 1) Delilah Wallenda and Nan DeVincentis-Hayes, *The Last of the Wallendas* (Far Hills: New Horizon Press, 1993), p.203.
- 2) *Ibid.*, p.184.
- 3) Nik Wallenda with David Ritz, *Balance: A Story of Faith, Family, and Life on the Line* (New York: Faith Words, Hachette Book Group, 2013), p.7. ; Delilah Wallenda and Nan DeVincentis-Hayes, *op.cit.*, pp.178-182.
- 4) Delilah Wallenda and Nan DeVincentis-Hayes, *op.cit.*, p.203.
- 5) *Ibid.*, p.203.
- 6) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.5-6.
- 7) <http://www.thehindu.com/features/metroplus/article3616090.ece> (January 12, 2014).
- 8) <http://www.lasvegasweekly.com/as-we-see-it/2012/jun/22/walking-tightrope/> (January 12, 2014).
- 9) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.32-33.
- 10) *Ibid.*, p.35.
- 11) http://zoppe.net/alberto_zoppe/alberto_zoppe_01.htm (January 12, 2014).
- 12) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.31-32.
- 13) <http://www.foxnews.com/us/2012/06/15/wallenda-readies-for-tightrope-walk-over-niagara-falls/> (January 12, 2014).
- 14) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.3.
- 15) *Ibid.*, p.3
- 16) Delilah Wallenda and Nan DeVincentis-Hayes, *op.cit.*, pp.235-240.
- 17) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.37.
- 18) *Ibid.*, pp.39-40.
- 19) *Ibid.*, p.43.
- 20) *Ibid.*, pp.44-46.
- 21) <http://wibx950.com/the-flying-wallendas-often-performed-at-enchanted-forest-in-old-forge> (January 12, 2014).
- 22) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.53-54.
- 23) *Ibid.*, p.55.
- 24) *Ibid.*, pp.61-63.
- 25) *Ibid.*, p.63.
- 26) *Ibid.*, pp.67-69.
- 27) Ron Morris, *Wallenda: A Biography of Karl Wallenda* (Chatham: Sagarin Press, 1976), pp.161-166. ; Delilah Wallenda and Nan DeVincentis-Hayes, *op.cit.*, pp.81-86. ; Tino Wallenda, *Walking the Straight and Narrow: Lessons in Faith from the High Wire* (Orlando: Bridge-Logos 2005), pp.21-22. ; Tom Ogden, *Two Hundred Years of the American Circus* (New York: Facts On File), PP.364-365.
- 28) Tino Wallenda, *op.cit.*, p.62. ; Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.70.

- 29) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.75.
- 30) http://web.archive.org/web/20110708233042/http://www.darrenruby.com/shrine_circus.htm (January 12, 2014).
- 31) Tino Wallenda, *op.cit.*, p.62. ; <http://www.wallenda.com/index.php/wallendas-history> (January 12, 2014).
- 32) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.77.
- 33) *Ibid.*, p.83.
- 34) <http://www.theagencygroup.com/artist/nik-wallenda-2> (January 12, 2014). ; <http://nikwallenda.com/bio> (January 27, 2013). ; Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.83-85.
- 35) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.85.
- 36) *Ibid.*, p.87.
- 37) *Ibid.*, p.89. ; <http://nikwallenda.com/bio> (January 27, 2013).
- 38) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.90. ; <http://www.theagencygroup.com/artist/nik-wallenda-2> (January 12, 2014).
- 39) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.91.
- 40) Tino Wallenda, *op.cit.*, p.62., p.76. ; <http://nikwallenda.com/index/php/wallendas-history> (January 12, 2014).
- 41) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.93-96. ; <http://nvonews.com/2013/06/24/nik-wallenda-grand-canyon-walk-history-of-his-tightrope-stunts-video/> (January 12, 2014).
- 42) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.94.
- 43) *Ibid.*, pp.98-100.
- 44) *Ibid.*, p.101.
- 45) *Ibid.*, p.102.
- 46) <http://www.prnewswire.com/news-releases/mcdonalds-r- goes-to-great-heights-to-serve-a-great-cup-of-their-premium-roast-coffee-56263077.html> (January 12, 2014).
- 47) <http://nvonews.com/2013/06/24/nik-wallenda-grand-canyon-walk-history-of-his-tightrope-stunts-video/> (January 12, 2014). ; Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.103-106.
- 48) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.110-111.
- 49) *Ibid.*, p.112.
- 50) <http://www.nytimes.com/2007/03/30/arts/30circ.html?n=Top/Reference/TimesTopics/Organizations/R/Ringling%20Bros%25&r=0> (January 10, 2014).
- 51) http://seattletimes.com/html/entertainment/2003860789_circus31.html (January 10, 2014).
- 52) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.128-132., p.136.
- 53) *Ibid.*, pp.136-138.
- 54) *Ibid.*, p.140.
- 55) <http://www.today.com/id/27178568/> (November 5, 2013). ; <http://www>

- lehighvalleylive.com/entertainment-general/index.ssf/2008/10/highwire_daredevil_nik_wallend.html (November 5, 2013).
- 56) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.143.
- 57) <http://www.today.com/id/27178568/> (November 5, 2013).
- 58) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.144.
- 59) <http://www.youtube.com/watch?v=Y8klhf89BRg> (November 5, 2013).
- 60) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.145-146.
- 61) http://www.cedarfair.com/nik_wallenda/ (November 6, 2013).
- 62) <http://www.oxfordpress.com/news/news/local/high-wire-acrobat-to-take-thrills-to-new-heights-1/nLNN/> (November 6, 2013). ; Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.147-148.
- 63) http://www.youtube.com/watch?v=ynDzxd_vv18 (November 6, 2013).
- 64) <http://www.post-gazette.com/local/city/2009/07/04/Nik-Wallenda-walks-tightrope-across-Allegheny-River/stories/200907040125> (November 6, 2013). ; http://www.youtube.com/watch?v=eMgIg5CG_98 (November 6, 2013).
- 65) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.149.
- 66) Philippe Petit, *On the High Wire* (translated by Paul Auster with a Preface by Marcel Marceau, New York: Random House, 1985), p.14.
- 67) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.149.
- 68) <http://www.youtube.com/watch?v=CsLrQgEnkCI> (November 6, 2013).
- 69) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.150.
- 70) *Ibid.*, p.151.
- 71) Philippe Petit, *op.cit.*, p.14.
- 72) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.151-152.
- 73) *Ibid.*, p.156.
- 74) *Ibid.*, pp.157-159.
- 75) *Ibid.*, p.163. ; <http://www.heraldtribune.com/article/20100205/ARTICLE/2051005> (January 12, 2014).
- 76) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.163.
- 77) *Ibid.*, p.161.
- 78) <http://www.discovery.ca/article.aspx?aid=52476> (March 15, 2014).
- 79) <http://www.dailytelegraph.com.au/news/weird/nik-wallenda-breaks-high-wire-bicycle-guinness-world-record-in-bahamas/story-e6frev20-1225912059274> (January 12, 2014). ; http://www.bahamaslocal.com/newsitem/4344/Nik_Wallenda_sets_new_world_record_with_highwire_bicycle_ride_in_The_Bahamas.html (February 24, 2014).
- 80) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.162-163.
- 81) *Ibid.*, pp.166-167.
- 82) <http://www.infoniagara.com/nik-wallenda-previous-stunts.aspx> (January 12, 2014). ; http://www.youtube.com/watch?v=hBnO16WD_by (January 12, 2014).

- 83) http://seattletimes.com/html/nationworld/2014909395_apuswallendahighwire.html (January 12, 2014). ; <http://www.youtube.com/watch?v=Wz2ulfHD9dQ> (January 12, 2014).
- 84) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.170.
- 85) <http://blogs.atlanticcityweekly.com/ac-central/tag/nik-wallenda> (November 7, 2013).
- 86) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.168.
- 87) *Ibid.*, p.169.
- 88) *Ibid.*, p.169.
- 89) *Ibid.*, pp.169-170.
- 90) <http://nikwalenda.com/bio> (January 27, 2014).
- 91) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.177.
- 92) *Ibid.*, p.179.
- 93) <http://www.infonniagara.com/nik-wallenda/biography.aspx> (November 7, 2013).
- 94) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.179.
- 95) *Ibid.*, p.182.
- 96) <http://www.2macleans.ca/2011/08/05/a-daredevil%E2%80%99s-toughest-challenge/> (November 8, 2013).
- 97) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.174.
- 98) <http://www.niagarafallsreporter.com/Stories/2012/June12/TrevinoMaziarz.html> (November 9, 2013). ; <http://www.stcatharinesstandard.ca/2012/06/12/dream-of-falls-walk-started-at-a-young-age> (November 9, 2013).
- 99) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.174-175.
- 100) *Ibid.*, p.181.
- 101) *Ibid.*, p.182.
- 102) *Ibid.*, p.184.
- 103) *Ibid.*, p.186. ; http://www.thestar.com/news/canada/2012/06/09/tightrope_walker_nik_wallendas_plan_to_conquer_niagara_falls.html (November 9, 2013).

II Wallenda 以前に Niagara の滝に挑んだ人々

Niagara の滝一帯における主要産業が観光業となったのは 18 世紀半ば以来であるが、この滝を渡ることを志した人々のかなり正確な記録が残されている 1800 年代以降の挑戦について考察したい。この滝に挑んだ人々の中には卓越した綱渡り師だけでなく、無謀な試みによって名声や富を得ようとする者もあり、1800 年代半ばから 1951 年までの間に数多くの命知らずの人々が樽そ

他の装置を用いて、危険な冒険を行ない、命を落としていた。

こうした離れ業に成功した者の中で、最も初期に樽で Niagara の滝を渡ることに成功した人物は 63 歳の女性教師 Annie Taylor¹⁾ で、彼女は 1901 年 10 月 24 日に飼猫とともに等身大の大樽で Niagara 河の本流を下った。激流に跳び込んでから 17 分後にカナダの岸近くで樽が引き上げられたとき、彼女は眼が眩んだものの勝ち誇る思いであり、Niagara の滝の恐るべき威力を征服した最初の人物となった。彼女は自分が求めている名声は獲得できたが、富を得ることには失敗し、Niagara での決死の挑戦の 20 年後に、貧困のうちに死亡した²⁾。

次にイギリス人 Bobby Leach が 1911 年 7 月 25 日に鋼鉄製の樽で滝を渡るのに成功したが、非常に多くの骨折や怪我から立ち直るために病院で 23 週間過ごした。彼は Niagara での冒険から 15 年経過して New Zealand で講演旅行をしていたときにオレンジの皮で足を滑らせて足の骨を折り、その傷が原因となった合併症により死亡した³⁾。

また別のイギリス人 Charles Stephens は 1920 年 7 月 11 日に重い樫の木で作った樽の中に入ったが、滝の上から落下したときに樽が水に激しく打たれて壊れ、彼自身は樽の底から脱出したが死亡し、彼の片腕だけが発見された⁴⁾。

Canada の Quebec 生まれの Jean Lussier は、32 個の内管と二重に巡らした鋼鉄の枠から成る長さ 6 フィートのゴム製の球体を設計し、1928 年 7 月 4 日、この球体は早瀬で激しい衝撃を受けたが、滝の水面を跳ねながら進み、球体に入った約 1 時間後に彼は無事に上陸した。その後、長年に亘り、彼は Niagara の滝で用いた球体を展示し、内管の薄片を、記念品として 1 つ 50 セントで販売した⁵⁾。

New York 州西部の Buffalo 市出身のギリシャ人のコック George Stathakis は、1930 年 7 月 5 日、木材と鋼鉄から成る装置で滝を渡ろうとしたが、22 時間の間、水のカーテンに閉じ込められ、僅か 3 時間分の酸素しか準備していなかったために死亡した⁶⁾。

Red Hill, Jr. は、1951 年 8 月 5 日、漁網とキャンヴァス地の紐で繋ぎ合わ

せた13の内管から成る(“Thing”という)装置に乗って、Niagaraの滝を渡ろうとしたが、それは空中に放り上げられて転覆し、岩にぶつかって跳ね上がり、滝に到達する前に崩壊し始め、急降下したときに激流の中に“Thing”は姿を消し、翌日、Hillの叩き潰された体が、河から引き上げられた⁷⁾。

以上は、20世紀初頭から半ばにかけてNiagaraの滝に挑戦した名高い冒険者たちであったが、19世紀半ばから20世紀初頭までの間で、Niagara河の急流を航行するか、或いは泳いで渡ることを試みた人々が少なくとも8名以上は存在した。

次にNiagara峡谷を渡ることを試みたtightrope walkerについて考察すると、Niagara河の渓谷を最初に渡ったのは、歴史上余りにも名高いフランス人Blondin (Jean-François Gravelet (1824~1897)⁸⁾で、彼は、ヨーロッパのサーカスの偉大な伝統を継承した大衆芸術家・興行師であった⁹⁾。彼は身長5フィート5インチ、体重140ポンドの小柄な体格で、輝く青い眼(bright blue eyes)と金髪の持ち主であったので、Blondinというニックネームがつけられた。彼は綱渡り師は「詩人のように生まれながら才能に恵まれたものである」¹⁰⁾と信じており、4歳のときに数フィート離して置いた2つの椅子の間に張ったロープの上に登った。5歳でLyonのÉcole de Gymnaseに入学し、6か月の訓練でアクロバット師となった。彼は1855年にNew York CityのRavel一座とともに演技する契約を得ようとしていたときにNiagaraの滝を渡るアイデアを思いついた。彼のマネージャーHarry Colcordは、Blondinが人間というよりは幻想的な妖精のような存在で「小鳥が空を斬って進むのと同じように綱を渡ることができた。」¹¹⁾と述べている。1859年6月30日、現在のRainbow Bridgeに近い場所で、片側は水上160フィート、もう一方は270フィートの地点で、麻の綱を用いて1,100フィートを渡った。その日、彼の離れ業を見るために、アメリカ側とカナダ側を合わせて25,000人の群衆が集まった。彼はスパンコールをちりばめたピンクのタイツと、底の部分が柔らかい、先の尖った革靴を履き、長さ30フィート、重さ約40ポンドのトネリコ材で作られたバランス棒を持ち、アメリカ側から出発し、中程まで歩いた所で綱の上で

仰向けになり、立ち上がってから後ろ向きに宙返りをし、20分間のワイヤーウォークを完成させた。しばらく休憩した後、彼は今度は銀板写真機を背中にくくり付けてアメリカ側に向かい、200フィート進んだ所で綱の上に写真機を置いて、アメリカ側の岸の群衆を撮影した後に綱渡りを続けた。彼はその後何度もそこを渡ったが、そのたびに演技にヴァリエーションを加え、自転車に乗ったり、目隠しして歩いたり、一輪車を押したり、竹馬に乗ったり、綱の上に置いた椅子の上に立ったり、料理用ストーブでオムレツを料理したが、遂に自分のマネジャー Harry Colcord を背中に乗せて渡った。(Colcordにとって、その体験は悪夢のようなものだったと言われている。)¹²⁾

Blondin が天才的な技を備えていたことは言うまでもないが、彼は昔からあった綱渡りに斬新な工夫を加えて、魅力的なライブ・エンターテインメントとする才覚があったために国際的な名声を獲得し、イギリス、Scotland, Ireland でも活躍し、最終公演は1896年 Ireland の Belfast で行なわれ、1897年に London で死去した。彼は余りにも卓越した才能の持ち主であったので、生前から伝説化され、Blondin の名は綱渡りの代名詞となった。

次に William Leonard Hunt (1838~1929) は Ontario 州 Port Hope の住民で“Signor Farini”と名乗る綱渡り師で、1860年代に Niagara の滝で有名な演技を何度も行なったが、殆ど Blondin のスタントと同じ種類のもので、彼ほどの栄誉は得られなかった¹³⁾。特筆すべき演技として、1860年9月5日、洗い桶をかついでワイヤーウォークの中心地点まで行き、洗い桶とバランス棒をケーブル上に固定し、ほぼ200フィート下の河から水を汲み上げて女性ファン達のハンカチを洗濯し、洗い桶の上に張り出した支柱にハンカチを吊して風で乾かし、洗濯物を取りこんで戻ってきた。30歳代の1869年までには身の安全を考慮して、演技者としてよりはマネジャー、トレーナーに転向するようになり、発明の才を発揮したり、大サーカス企業家 P.T.Barnum とともに仕事をしたこともあった¹⁴⁾。

Harry Leslie は“The American Blondin”と称し、1865年6月15日に Whirlpool Rapids の溪谷を渡った¹⁵⁾。

Andrew Jenkins (1844~1924) は、イギリスの Gloucester に生まれ、家族は 1850 年にアメリカへ移住したが、翌年 Canada の Ontario 州に近い現在の Branchton にあたる場所に定住した。“Canadian Blondin” と呼ばれた彼は、15 歳のときに Blondin のスタントを見るために Niagara の滝を訪れて以来、彼のようになりたいと願い、Blondin が行なった全ての演技を練習し、1869 年 8 月 26 日、自転車をさかさまにした形の velocipede と直径 4 インチのロープを用いて、11 分間で 1040 フィートを渡った。それ以後、彼はアメリカやカナダの様々な場所で演技を行ない、特に Ohio 州 Cleveland に近い Rocky River Resort で 1000 フィートのワイヤーウォークを毎日行なっていた¹⁶⁾。

Maria Spelterini (1853 [1850]~1912) は Niagara 河の峡谷を渡った史上初の女性として知られている¹⁷⁾。彼女の経歴は謎に包まれているが、彼女自身が 1876 年に記者に語った所では、イタリア中部 Toscana 州 Livorno に生まれ、3 歳のときに父の率いる一座の公演に初出演した¹⁸⁾ とあるが、他の文献によれば、Berlin で画家と裁縫師の間に生まれ、巡回中の Fernando Spelterini 一座の座長が彼女を養子にしたとなっている¹⁹⁾。いずれにせよ、彼女は幼くしてアクロバットと綱渡りの技を学び、Berlin と ^{ウィーン}Vienna で公演し、輝かしい成功を収めた後、1871 年に Russia での high wire の公演で大成功したので、これを職業として選択した。彼女は、冷静な大胆不敵さと結びついた素晴らしい度胸のために、職歴の中で一度たりとも失敗したことはなく、優れた知性によって、何度も事故による負傷を免れた²⁰⁾。

体重 150 ポンドの豊満な体格の美女 Spelterini は、建国百周年記念行事の一つとして、1876 年 7 月 8 日、Niagara 河の川下の高さ 65 メートル、長さ 330 メートルの吊り橋（現在の Whirlpool Bridge）の北側に直径 2.25 インチのワイヤーを張り、約 30 キロのバランス棒を持って渡ることに成功した。男性を凌ぐ技量と豪胆さを持った彼女は、女性でも立派に偉業を成し遂げられることを立証するために Niagara に挑戦したのだった。ワイヤー上の彼女の演技を見物するために Erie, New York Central, Great Western, Canada Southern などの鉄道が、いまだかつて試みられなかった女性による滝の早瀬渡りを見物

するために訪れる人々の便宜を図る目的で、周遊旅行者を輸送するのと同じ頻度で列車を走らせた。夥しい数の人々が彼女の演技を見るためにアメリカ東部から集まり、見物客に食料品、日除け帽、様々な記念品、脚立、望遠鏡などを売るためのありとあらゆる商店が急いで作られた。彼女が落下するかどうか賭けをする人々もいたが、約1万人の見物客の殆どは、彼女を応援することを目的としていた。彼女が成功すると、興奮した群衆は、彼女を祝福するために殺到し、整理の係員は非常に忙しかったと伝えられている²¹⁾。

Spelterini は、同年7月12日には、自分のワイヤーウォークをドラマティックなものにしようと考えて、両足に桃を入れる籠をくくりつけて渡った。7月19日には目隠して11分間で渡り、復路では目隠しを外して17分間で渡り終えた。7月22日には手枷、足枷をはめて渡った。彼女のNiagaraでの最終公演は7月26日であった。その後の彼女の業績についての正確な記録は見当たらないが、彼女がBlondinによって代表される先人の綱渡り師と互角の技量であることを証明したのは言うまでもない²²⁾。Niagaraでの業績はSpelteriniにとって特別なものではなく、彼女は、河の上を歩いて渡ることは自分がワイヤー上で行なえる様々な演技の半分ほども演技者の勇気を表わしてはおらず、許容範囲で水平になるように渡り綱に十分な張力が加えられ、適切に支え綱が張られてさえいれば、10以上の異なる演技をワイヤー上で行なえると主張した²³⁾。超一流の技術と豪胆さを持ったtightrope artistであった彼女の140年前のこの言葉が真実であることに疑いの余地はないであろう。1880年代と1890年代のNiagara観光ブックにはSpelteriniがNiagaraで目ざましい離れ業を披露したことが必ず記されており、Niagaraの女王が19世紀末のこの地域の観光にもたらした経済波及効果に、大いに注目すべきである。

Stephen Peer (1840~1887) は、Niagaraの滝に近いStamford Townshipに誕生し、19歳のときに偉大なBlondinの演技を見たことから靈感を得て、自分も熟達したtightrope artistとなってNiagaraでショーを公演する決意をした。彼はオーストラリアのBlondinと呼ばれるHenry Belliniが1873年の春Niagaraで演技を行なったさいに索具装備の援助の仕事をしていた。しかし

Bellini の許可を得ずに彼の装具を用いて自分の演技を公開したために、(伝えられる所によれば) Bellini は彼の演技を止めさせるために彼が乗っているロープを切断しようとした結果、町の人々は Bellini を追い出した。その後 Peer は熱心に練習を重ね、遂に 1887 年 6 月 22 日、現在の Whirlpool Bridge と Penn Central Bridge の間を往復するのに成功した。彼は直径僅か 5/8 インチのケーブルで渡る豪胆さが賞賛されていた。(ちなみに、Nik Wallenda が、ふだん使用しているケーブルは 5/8 インチである。)ところが 6 月 25 日に、Peer は彼のケーブルの真下の Niagara 側の岸辺に亡骸となって発見された。彼の死の真相は謎に包まれているが、夜に友達と一緒に酒を飲んだ後でケーブルを渡ろうとして落下したものと類推される²⁴⁾。

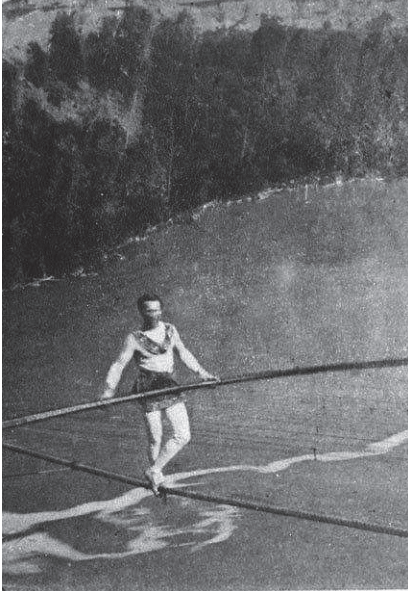
Samuel Dixon は Canada の Ontario 州 Toronto の写真家であったが、熟達した tightrope artist でもあり、1890 年 9 月 6 日、1891 年 7 月 17 日に Niagara 河の Whirlpool Rapids の最も広い水域を、直径 7/8 インチのケーブルを用いて往復した。彼の長さ 16 フィートのバランス棒は、ガス管三つを繋ぎ合わせたものであった。彼は、まずカナダ側からアメリカ側へ渡った後で、復路では胸の上にバランス棒を置いて渡り綱の上に仰向けになったり、片足で渡り綱の上に立ったり、片手でぶら下がったりして演技にサスペンスを加えた。彼は (Nik Wallenda が登場するまでは) Niagara をかつて訪れた tightrope walker として真の意味で記憶されるべき最後の人であった²⁵⁾。

Clifford Calverly は 1870 年 Ontario 州 Thornbury で生まれ、同州の Clarksburg で尖塔職人として働いていたが、1887 年に Niagara の滝で演技するために訪れ、渓谷のあちこちで 1892 年と 1893 年に驚嘆すべきスタントの数々を披露した。1892 年 10 月 12 日に太さ 2.5 センチの鋼鉄製のケーブルの上を何回も渡った。1893 年 7 月 1 日の演技では、バランス棒を用いて縄跳びをし、後に、渡り綱の中央まで料理用ストーブを押して行って卵料理をしたり、片手片足で綱からぶら下がったり、椅子の上に座ったり、一輪車で渡ることもした。1893 年 7 月 4 日には、先人の綱渡り師たちの殆どが渡るのに 15~20 分を要した箇所を 2 分 32 秒という速さで渡る記録を打ち立てた²⁶⁾。

James E.Hardy は、Ontario 州 Toronto 出身で、1896 年 7 月に Niagara 河の溪谷を訪れ、この年の夏に 16 回渡った。当時 21 歳であった彼は、歴史上 Niagara を渡った最も若い人であった。これ以後 2012 年に Nik Wallenda が挑戦するまで、Niagara の滝を渡ることは禁じられていた²⁷⁾。

今日、世界最高の high wire artist の一人が 1974 年に New York 市の World Trade Center の Twin Towers で 45 分にわたる演技を行なった「空中の詩人」Philippe Petit であることに異論を唱える者は存在しないであろうし、芸術への献身的姿勢と high wire の技量において、現在 64 歳の Petit は Wallenda と肩を並べる人と思われる。Twin Towers でのワイヤーウォークは、いわゆる illegal な方法でしか実行不可能であったが、この快挙の後に彼が次の目標としたのは Niagara の滝であった。しかし Petit が New York 州 Niagara Falls 市の Prospect Point Park から Ontario 州 Niagara Falls 市の Horseshoe Falls の水際の Table Rock まで渡る許可を申請したとき、Niagara Parks Commission (NPC) は、彼の申請を 1974 年 8 月 19 日に却下した²⁸⁾。だが、その後 1986 年に、彼は Kieth Merrill 制作・監督の IMAX 映画 *Niagara: Miracles, Myths & Magic* で Niagara の英雄 Blondin 役を演じ、カナダ側の岸の 170 フィート上空に張られた 50 フィートのワイヤー上を優美に歩き、その演技は賞賛された²⁹⁾。

上記の Philippe Petit を含め、1971 年以来、6 人のワイヤーウォーカーが、Niagara の滝を渡る認可を得るために申請しており、その中には“Prince of High Wire”と呼ばれ、超絶的かつ気品ある芸術的演技を繰り広げることで全世界に名声を知られた Canada の Jay Cochrane (1944~2013) がいた³⁰⁾ ことを、我々は決して忘れるべきではない。



Niagara の伝説的英雄
Blondin



Niagara の女王
Maria Spelterini



Prince of High Wire — Jay Cochrane

【注】

- 1) <http://www.biography.com/people/annie-edson-taylor-195766> (January 14, 2014).
- 2) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014). ; <http://www.history.com/news/a-daredevil-history-of-niagara-falls> (January 13, 2014).
- 3) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 4) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014). ; <http://www.history.com/news/a-daredevil-history-of-niagara-falls> (January 13, 2014).
- 5) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 6) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014). ; <http://www.history.com/news/a-daredevil-history-of-niagara-falls> (January 13, 2014).
- 7) <http://www.adventure.howstuffworks.com/survival/wilderness/niagara10.htm> (January 14, 2014). ; http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 8) John Culhane, *The American Circus: An Illustrated History* (New York : Henry Holt and Company, 1990), pp.61-62.
- 9) <http://www.niagaraparkscom/media/niagara-falls-stunting-history.html> (November 10, 2013).
- 10) <http://blogs.smithonianmag.com/history/the-daredevil-of-niagara-falls-110492884/>(January 14, 2014).
- 11) <http://blogs.smithonianmag.com/history/the-daredevil-of-niagara-falls-110492884/>(January 14, 2014).
- 12) Hermine Demoriane, *The Tightrope Walker* (London: Secker&Warburg, 1989), pp.56-57. ; http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014). ; <http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/>(January 13, 2014).
- 13) <http://www.niagaraparkscom/media/niagara-falls-stunting-history.html> (November 10, 2013).
- 14) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 15) <http://www.niagaraparkscom/media/niagara-falls-stunting-history.html> (November 10, 2013). ; <http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/>(January 13, 2014).
- 16) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 17) Hermine Demoriane, *op.cit.*, p.108. ; <http://www.history.com/news/a-daredevil-history-of-niagara-falls> (January 13, 2014).
- 18) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 19) Ernst Günther, *33 Zirkus geschichten* (Berlin : Henschelverlag, 1977), p.44.
- 20) http://www.niagarafontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 21) Ernst Günther, *op.cit.*, pp.46-50.

- 22) [http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/\(January 13, 2014\).](http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/(January%2013,%202014).) ; <http://www.niagaraparkscom/media/niagara-falls-stunting-history.html> (November 10, 2013). ; <http://www.nflibrary.ca/nfplindex/show.asp?id=78888& b=1> (November 14, 2013).
- 23) http://www.niagarafrontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 24) <http://www.niagaraparkscom/media/niagara-falls-stunting-history.html> (November 10, 2013). ; http://www.niagarafrontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 25) [http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/\(January 13, 2014\).](http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/(January%2013,%202014).) ; http://www.niagarafrontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 26) <http://www.niagarafallsreview.ca/2012/06/12/daredevil-tales> (January 14, 2014). ; http://www.niagarafrontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 27) http://www.niagarafallsinfo.com/history-item.php?entry_id=1491& current_category_id=289 (November 14, 2013). ; [http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/\(January 13, 2014\).](http://wonderland1981.wordpress.com/2012/11/(January%2013,%202014).) ; http://www.niagarafrontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 28) http://www.niagarafrontier.com/devil_frame/html (January 13, 2014).
- 29) <http://www.wivb.com/news/philippe-petit-reenacts-blondin-feat> (January 13, 2014).
- 30) [http://www2.macleans.ca/2011/08/05/a-daredevil% E2% 80% 99s-toughest-challenge/](http://www2.macleans.ca/2011/08/05/a-daredevil%E2%80%99s-toughest-challenge/) (January 13, 2014).

Ⅲ 世紀のイヴェントを成功させるための準備

Nik Wallenda は「政治」も「マスコミ」も殆ど未知の世界であったにもかかわらず、21 世紀の一般大衆の善意を信じ、自分が歴史上初めて Niagara の滝を完全な形で渡ることを彼らが望んでいると信じて、米・加両政府の認可を得るために真正面から闘った。

Niagara 河の深さ 60 メートル (200 フィート) の峡谷を横断して 550 メートルを歩く¹⁾ ことが、いかに危険な試練であるか、最もよく知っているのは Nik Wallenda 本人であったが、ワイヤーウォーカーとしての彼の存在意義を危険に晒していたのは、アメリカとカナダ両国の官僚主義であった。樽や奇抜な装置で渡ろうとした命知らずの冒険者たちの無謀な試みや事故のために、景勝の地としての Niagara の価値が損なわれることを憎悪する官僚たちを相手に、自分のワイヤーウォークを自殺行為にたとえられることに対して、彼は怒

りをあらわにして「これはスタントではない。これは私が人生を捧げてきた芸術の公演なのだ。」²⁾と強調した。彼は、巨大な滝を背景として用いた壮麗なライブ・ショーとしてのワイヤーウォークが立派に成し遂げられれば、成功を望んでいる圧倒的多数の観客を感動させられると期待していた。そして、彼の一世一代のショーの舞台となる場所は、美しさと同時に畏怖の念を起こさせる場所であるので、不特定多数の視聴者が自宅でショーの全貌を鑑賞することができるテレビで報道されるのには最適であろうと考えていた³⁾。

前述の Roger Trevino は、Wallenda に初めて会って彼が Niagara の滝を渡ることを望んでいると確認すると、直ちに New York 州上院議員 George Maziarz と連絡を取り、Trevino と Maziarz は、Wallenda の演技を認可するような法案が作られ、知事が署名する必要があると悟った。Maziarz は Wallenda の一大イベントを熱烈に支持し、彼が Wallenda の人物・力量を見て、信じるに足る真のエンターテイナーだと認めたときに、さらにその姿勢は強まった⁴⁾。Maziarz の政治的影響力はかなり大きく、上院でも下院でも、一度に限り、Niagara でのスタントを認める法案が圧倒的多数で通過し、最終的に Andrew Cuomo 知事が署名するかどうかの段階にきた。Cuomo には署名するか無視するか決定するまでに 10 日間の猶予が与えられた。民主党員である知事が、共和党のイニシアティヴによって提出された法案に署名しないだろうと示唆する者もあり、周囲の全ての人々が法案は抹殺されたと諦めていたが、最後の 10 日目すなわち 2011 年 9 月 23 日に知事が署名し、法案は有効になった⁵⁾。

カナダ側に関しては、Wallenda が滝渡りのキャンペーンを開始してから 1 年以上経った 2011 年の夏、Niagara Parks Commission (NPC) は、1896 年以来この地でのスタントを禁止した法令が有効であると決断を下していた。Nik は直ちに、個人的に、この委員会との会合を求め、10 月 20 日に、ようやく会う許可が得られた⁶⁾ので、彼と父は「このワイヤーウォークが肯定的な宣伝効果だけでなく、より意義深いことには、地域の観光事業にとって恩恵となり、経済的側面で Canada に利益を与えるであろうと示すつもりであった⁷⁾。

だが、構成員の1人がWallenda側の要求は既に却下されたはずだが、彼に自分の立場を述べる機会を与えたのだと前置きしたあとで、Nikは僅か5分間で説明せねばならなかった⁸⁾。予定の内容の約半分の説明が済んだところで、後1分間でまとめるよう命令され、彼は文章の途中で話を止めさせられた。彼は回顧録*Balance*の中で、著しく敵対的であった委員の個人名をあげていないが、この人物はNPCの議長Janice Thomsonではないかと類推される。彼の演技が「扇情主義的で、それはNiagaraの滝の本来あるべき姿ではない。Niagaraの滝は河の自然の美を称えるために存在するものであり、滝の環境の保持を認識すべきである。」⁹⁾とThomsonが述べて、強く反対している文献がある¹⁰⁾。NPCの否定的態度に対して、Nikの父Terry Trofferが自己の見解を明らかにしているのは誠に意義深い。

「お言葉を返すようですが、これはスタントではありません。これは我々一族が200年以上訓練を重ねてきたことなのです。これは樽の中に潜り込んで滝の縁までたどり着くのと違います。これは運動競技なのです。これは芸術的才能を発揮することなのです。これは感嘆すべき偉業なのです。ですから、我々と我々一族の歴史に顧慮して、どうかこれをスタントとは呼ばないで下さい。」¹¹⁾

父の言葉はNikの心を動かしたが、NPCの誰の心も動かさなかったようで、NPCを説得できなかったことは明らかであったが、彼は、報道関係者たちに向かつては、委員会と会合を持つ機会があったことに感謝しており、「私は、このワイヤーウォークが、この地域の人々だけでなく、世界中の人々を楽しませるものだと信じます。このワイヤーウォークは、不可能なことを可能にすることであり、まさしく、私の主張している通り、決して諦めないことなのです。」¹²⁾と述べた。Wallenda父子の希望の灯は、12月7日に、全会一致で、Niagaraの滝からCanadaの領域に至るスタントを許さないというNPCの見解が示された¹³⁾ときに消されてしまったが、Nikは、自分が決して諦めてはい

ないと述べた。

何としても Niagara の滝を渡りたかった Nik Wallenda は、彼の本意ではなかったが、人々が Niagara から連想する、畏怖の念を起こさせるカナダ寄りの Horseshoe Falls を除外し、American Falls からアメリカ側のどこかへ渡ることにより修正する方がゼロよりはましだと思ったが、New York 州の Parks Department はアメリカ側からカナダ側まで渡ること限定して法案を通過させていたので、それは、実現不可能と悟った¹⁴⁾。あまりにも多くの障害に意気阻喪した彼は、Niagara の滝を渡りたいという自分の夢と願いが誤ったものであったり、単なる自己顕示欲に過ぎないなら、自分から、この夢と希望を取り上げてくれる方が心安らかになるとさえ思った¹⁵⁾。しかし、神は彼から目標を取り上げる事なく、これまでもまして、夢と願いは彼の心の中で強固になって行った。

Nik は自分の Niagara Falls Walk が及ぼす経済波及効果について具体的に明示することによって、反対している人々にも、このイベントが価値あるものだとして理解してもらおうとした。すなわち彼は、独立した調査企業 Enigma Research に依頼して、このイベントは実施後 5 年間の“legacy effects”（遺産効果）1 億 2 千 2 百万ドルを Niagara Falls 市に提供するであろう¹⁶⁾と立証した。そしてネットワークがスポンサーになれば、全世界 4 億 6 千万人の視聴者が彼のワイヤーウォークをテレビで見ることを通して Niagara の滝の美しさを愛するようになるだろう¹⁷⁾と説き、Niagara の美しい自然環境を守るために必須の安全策を提供すると保証した。彼は自分が行なう予定の Niagara Falls Walk には高度の索具の装備が必要なので、彼を模倣して命を落とすような人はいるはずもなく、二重のフェンスを用いて演技する以上、ワイヤーウォークを間近で見ようとする群衆が断崖から落ちることなどありえないと述べた¹⁸⁾。

Wallenda 側の主張は Canada 側では一切認められなかったが、Niagara Falls 市長 Jim Diodati と Ontario 州の Minister of Tourism and Culture の Michael Chan の支持を得ることができ、Chan は NPC に再度 Wallenda 側の主張を充

分聞くよう要請してくれた。新たな情熱と希望を得た Wallenda 父子が NPC に会見すると、前回とは全く異なった雰囲気、あらゆる見地から見て、このワイヤーウォークが素晴らしいものであると力説する自分たちの厳密な分析が正しく評価され、特にイヴェントの経済波及効果がいかに大きなものであるか立証されたため¹⁹⁾、NPC は前回の決定を翻し、Nik Wallenda の要求は、全会一致で、2012年2月15日に承認された²⁰⁾。

政界での駆け引きには殆ど知識のない Nik には、かつて全く否定的であったものが今回は肯定的になった理由が理解できなかったが、前進のエネルギーを与え、彼の行く手を照らし続けてくれる神を賞賛した。しかし、彼は今後も、さらなる忍耐が必要であるという教訓を何度も繰り返して学ばねばならなかった。

Nik にとって非常に幸運であったのは、*Good Morning America* のプロデューサー Morgan Zalkin が、彼が Niagara の滝を渡りたいという情熱を持っていることを Twitter で知り、自分の上司に伝えて ABC を動かし、ABC が放映権を購入し、Niagara Walk の費用を負担することに同意したことであった。Nik Wallenda は回顧録 *Balance* の中で Zalkin に感謝するとともに、Twitter というメディアに感謝すると述べている²¹⁾。イヴェントの実施日は2012年6月15日と決定された。ABC の特別番組 *Megastunts: Highwire Over Niagara Falls* は、Canada 側では CTV が放映することになった²²⁾。

これより数か月前に Ripley's Believe It or Not! から Maryland 州 Baltimore に博物館を開くので、Baltimore でスカイウォークをしてほしいとの要請があり、この市の四階建ての二つの建物の間を歩くことが提案されたが、Nik は、この仕事が自分には余りにも容易に思われたので、建物から出発してケーブルの上を歩き、Baltimore の Inner Harbor に停泊しているはしけに取り付けられたクレーンの頂上に到達する案を思いついた²³⁾。彼は曾祖父 Karl が1973年 Baltimore 市の博覧会を祝賀するための行事一つとして Inner Harbor を渡った記録を偶々コンピュータで見つけていたので、非常に意義深く感じた²⁴⁾。2012年5月9日、彼は6月にオープンする予定の Ripley の博物館の2階の

ヴェランダから出発し、アメリカ最古の軍艦 Constellation 号の船尾近くに停泊しているはしけの上に設けられたゴール（空中 82 フィート）までの 300 フィートのワイヤーウォークを行なった。大群衆が彼に注目し、至る所にメディア関係者がいるのを見た Nik は、自分の演技にドラマ性を加えたいと感じ、ケーブルの終点に立っている Chris Ripo に向かって「3 万人の人々が悲鳴を上げるのを見たいと思うかね？」²⁵⁾ と尋ね、故意に足を滑らせる演技をした。見物していた群衆は、とてつもない悲鳴をあげたが、彼は沈着さを取り戻し、ワイヤーウォークを終わらせた²⁶⁾。大きな拍手が贈られたが、Niagara を渡るとい一大行事を前にして、彼は軽率な行動をとったことを思い知らされる。すなわち彼が観客にスリルを味わせるために故意に足を踏み外したという行為は、彼が予想もしなかったような大きな衝撃を見物人に与え、特に Niagara の滝渡りのスポンサーである ABC の幹部は命が縮むほど驚愕し、それを「演技」などとは思わず、Nik Wallenda に対して、Niagara の滝を渡るときには安全ベルトを着用することを強く求めた²⁷⁾。これは、彼が 16 歳であった 1995 年に Old Forge で演技したときに、故意に体の均衡を失ったような動作をして、母や観客を驚愕させたのと同じように、一種、自己満足的なショーマンシップの現われであり、芸術としての high wire と他のスタントとのバランスを充分把握していない未熟さを露呈する結果になってしまった。この点に関しては、経験豊かで、常に気品あるワイヤーウォークで観客を魅了したカナダ人アーティスト Jay Cochrane が、かつて Nik に、見物人を脅すようなスタントをすれば、結局、観客自体を失うことにつながるので、すべきではないと忠告したのに、自分はショーマンとして巧みな演技を披露しているのだ、と頑迷に主張したことと密接な関わりがある²⁸⁾。

約 1 か月後に Niagara の滝を渡るときには必ず安全ベルトを着用するよう ABC 側から命じられた Nik Wallenda は猛然と反論した。彼は「それは馬鹿げている。私は今までに安全防具を付けたことは一度もなく、防具を付けるということは自分の流儀に反し、自分の芸風を拘束するものであり、注意力を散漫にし、不必要な重荷を作り出すのだ。」²⁹⁾ と抗弁した。そして曾祖父 Karl は、

安全防具が偽りの安心感を作り出すために決して用いず、Karl の弟 Willy は安全ネットが張ってあったにも関わらず、反動でネットから跳び出して床に叩き落とされて即死した、という例を挙げた³⁰⁾。ABC 側が「我々は 5 億近いと予測される世界中の視聴者の面前で君を落下させるような危険を到底冒すことはできない。」³¹⁾と主張したのに対し、Nik は「私は、これまでの生涯で、ずっとその危険を冒してきた。その危険性は、我々の離れ業に非常に劇的要素を与えている必須の事実なのだ。」³²⁾と力説した。

ABC 側の主張は常識的であり、一般の社会人に納得できると言える。しかし、ここで、20 世紀最高の high wire artist の一人である Philippe Petit が自分の師と仰いできた Rudy Omankowsky—チェコスロヴァキア出身で high wire artist を中心とする一座 White Devils (Les Diables Blancs) を率いてきた世界最高の綱渡り師—に、World Trade Center でのスカイウォークを実施する上での索具設営上の問題点についてのアドバイスを得ようとしたときの Petit の態度について考察する。Omankowsky でさえ（登山用具で一部が開閉できる金属製の環）カラビナと安全ベルトを使用して生命を守るよう忠告したが、Petit は自分のワイヤーが「演劇の舞台であり、詩を描くキャンバスである」³³⁾と説明し、安全ベルトを使用することは自分には絶対にできないと明言している³⁴⁾。そして愛弟子の命を守りたいと願っている Omankowsky は眼に涙を浮かべながら「私には分かっているよ...お前は何か...何か美しいことをしたいのだろう。」³⁵⁾と言って Petit の手を握った。

Karl Wallenda, Philippe Petit, Nik Wallenda 全てに共通する最大の要素は high wire を至高の芸術として捉えている点であり、彼らが芸術のために生命を捧げることに自己の存在意義を見出だした真のアーティストであるという点である。2008 年に Academy 賞を獲得した長編ドキュメンタリー映画 *Man on Wire* の原作 *To Reach the Clouds* の著者 Petit の文学的表現が「空中の詩人」にふさわしい典雅で洗練されたものであることは言うまでもないが、「安全防具」に関して、父や父方の叔父が優れた技師である Nik Wallenda は、統計学的観点から次のように反論した。

「歴史を見てごらん下さい。全米自動車競争協会（NASCAR）のストックカーレースでの死者の数に比較すれば、空中演技者の死亡者数などは取るに足りない。あなた方は悲劇の可能性が大いにあると熟知しながら、NASCARの放送をすることは躊躇しない。典型的なレーサーは十代に運転を始めるが、自分は2歳のときにワイヤーウォークを始めた。自分は途方もない量の訓練と経験を重ねている。もし数学的に精密な確率表を見るなら、自分がこの仕事で死亡する可能性は極端にわずかだと分かるだろうが、カーレーサーに関して同じことは言えないだろう。」³⁶⁾

Petit の場合は、自分の師に対して、サーカスのテント内での演技のように、綱渡り師の腰に結び付けたケーブルがテントの上部に連結されている場合とは異なる戸外での長距離のワイヤーウォークでカラビナを用いた場合、渡り綱を支える支え綱の地点を通過するときにカラビナが支え綱に引っ掛かってしまう（し、支え綱を通過するごとにカラビナを外して渡り綱に付けて行くという Omankowsky の忠告は芸術性を損ねるため拒絶する）³⁷⁾ と冷静に現実を指摘したが、Wallenda の場合も、同じ理由で、カラビナあるいはそれに類する一部が開閉できる環を用いない限り、支え綱そのものの使用が安全防具のために不可能となるはずである。しかし生まれてから一度も使用したことのない器具を体の背後に装着することは精神集中の妨げとなるばかりか、Niagara のような、水煙と濃霧で視界がさえぎられる場所で、一定の距離ごとにカラビナのような環をつけ換えることは歩行を困難にするだけでなく、紛れもなく死につながる行為である。何故この事実 ABC 側も、世界中の視聴者も気づかなかったのか、私には極めて不可解である。或いは Wallenda 側は、そこまで説明すると、相手が完全にイヴェントから撤退すると感じて、沈黙していたのかも知れない。渡り綱のねじれを防ぐための重い振り子をケーブルに取り付け、歩行にも何とか支障をきたさないような防具を製作できたのは Wallenda 側の技師の優秀さによるが、支え綱によって渡り綱が完全には固定されていない以上、演技者は極めて危険であり、安全防具自体は、演技者が^{すき}犁を引いているロバの

ように感じさせる³⁸⁾ほど巨大な物になってしまった。結局は、偽りの安心感を視聴者に抱かせるために演技者の生命も名誉も危険に晒したのはABC側であったと言えよう。

さて、ワイヤーウォークよりもカーレースの方が遥かに危険なのだとするWallendaに対し、ABC幹部は「視聴者は…彼らが毎日、車を運転するとき自分達も同様の危険を冒しているのです、運転者にとって当然とされる危険と自分とを関連づけるが、君の冒す危険は（視聴者の実生活との関連性が無いので）特に恐ろしいとみなすのだ」³⁹⁾と主張し、自分たちがワイヤーウォークの費用を支払う以上、最終的に決断を下すのはABC側であるので、実施するか、全く実施しないかのどちらかを選ぶように言い渡し、安全防具の着用を契約に明文化した。そのようなイベントであれば、芸術至上主義のPetitならば拒絶したであろうが、Wallendaは何とかNiagaraの滝渡りを実現させたかったので譲歩した。しかし、彼がそのために耐え忍ばねばならなかった屈辱感は、想像を絶するものであったと推察される。彼は、まず一般の人々に、安全防具の装着が自分の本意ではないことを公に知らせた。彼の頑固な性格を知っている多くの人々が、ひとたびワイヤー上に行けば、彼がいつものように安全防具なしで自由に歩むだろうと予想していたし、彼自身、演技中にそれを外すことに、何の疑念も持たなかった。しかしイベントが近づくにつれて、常に自己を「廉潔の士」(“man of integrity”)と称して来た⁴⁰⁾以上、ABCとの契約以上に彼の信じる神に対して不実なことはできないと考えるようになり、アメリカだけでも1300万人と見積られる視聴者の前で、約束を破ることが許されるのだろうかと言問視するようになった。また、現実の問題として、自分が安全防具を外した時点でワイヤーウォークの仕事に携わっている4人の人々が解雇されることになっていた⁴¹⁾。彼は芸術家としての自己の名誉を守るために、自分のために働いている人々を犠牲にすることはできなかった。それを、芸術家としてのNik Wallendaの限界と見るか、ヒューマニズム精神を貫くために自分の存在意義である芸術を犠牲にした人と見るかは、それぞれの人々の判断によるであろう。さらに、新世紀の世界中の視聴者にサーカス芸術への関

心を抱かせ、敬愛する曾祖父の精神を継承してサーカス産業を栄えさせなければならぬという彼の使命感は、様々な個人的感情を乗り越えるほど強かつたはずである。従って、誤解や屈辱を耐え忍ぶことも神の与えた試練とみなして、一世一代の晴れ舞台の演技中、ハーネスを外さなかった。そのときの心の苦悩を理解することが、人間としての Nik Wallenda を愛する人々のつとめであらう。

Wallenda は危険なワイヤーウォークに備えて、熱心な練習を行なった。Niagara の滝で実施する 2 週間前の 6 月初めに Seneca Niagara Casino and Hotel の駐車場の上面に張ったケーブル上で、彼が現実的に Niagara の滝で直面するかも知れない状況を模擬実験するワイヤーウォークが開始され、ケーブルを進む彼を標的として、消防車の放水ポンプや巨大な送風機が、水を浴びせ、風を送った⁴²⁾。

彼は、この世紀のイヴェントが世界中の視聴者を引きつけるのに最も好都合な夜間の時間帯に実施される⁴³⁾ので、劇的効果を一段と増すことを喜んでおり、彼が演技者であるだけでなく、ショープロデューサーとしての慧眼を持っていることにも注目したい。

索具設営を困難にさせたのは、ガイワイヤーを安定させる仕事を行ってきた最も信頼できるエージェントを使えなかったことで、渡り綱に必要な張力を与えるために、いつも使用している直径 5/8 インチのワイヤーではなく 2 インチのケーブルを使わねばならず、その結果、ケーブルが大きく揺れ、ワイヤーウォークが難しくなることを意味していた。1,800 フィート（重さ 8.5 トン）のケーブルを設営するためには巨大なウィンチとヘリコプターが必要とされた⁴⁴⁾。そして、渡り綱のねじれを防ぐための振り子式の重りを使わなかったなら、安全防具が支え綱の結び目に引っ掛かるので、論理的に考えて、Niagara 渡りは不可能だったはずである。Nik の頭脳明晰な叔父たちの工学技術の鋭い洞察力が、渡り綱の設置と振り子の設置を可能にした。だが、この信じられないような業績が達成されたにも拘らず、あらゆる努力は、イヴェント開催の僅か 1 週間前に水泡に帰する所であった。まず制作費用が当初の見積額

100万ドルを超過して120～130万ドルになってしまった。超過した理由は、第一に、現実のイベント用と練習用の2種類の（グリースを抜いた）ケーブルを特注で製作してもらう必要があったことによる⁴⁵⁾。地元のNiagara Falls市長Jim DiodatiがNikが25万ドル集めるのを望んでいると地域の企業に寄付を依頼した⁴⁶⁾結果、20万ドルの寄付が集まったが、まだ5万ドル不足していた。これは、Wallenda側がケーブル設営の仕事を請け負わせたヘリコプター会社は、Niagaraの滝を越えて飛行するために必要とされる免許を持っていなかったために、新しいヘリコプター会社を雇う必要が生じたからであった⁴⁷⁾。進退極まった彼がindiegogoのウェブサイト（Nik Wallenda's Walk Across Niagara Falls）を通じて全世界に資金援助を募った所、日本を含む世界中から彼が予想もしなかったほど多額の好意的な献金（総額50,411ドル）が集まった⁴⁸⁾。

ところがイベントが開催される11日前に、New York Park Commissionは、土地を使用することに対して、New York州がWallenda側に課していた225,000ドルが未払いであると請求し、中止を要求してきた。Wallenda側のマネジャーたちは、New York州が彼らに間に合うように適切な書類を与えておらず、事実上支払いはすぐできると述べたが、州側は態度を変えなかったので、またもや行事は実現できなくなったように思われた。しかしながら、Wallendaのマネジャーの一人David Simoneが自分の口座から75,000ドルを支払ったため、Niagaraでのワイヤーウォークは実現可能となった⁴⁹⁾。だが、イベントの2日前に、New York州が、まだ10,000ドル以上未払いだと主張したため、再び中断されたかに見えたが、Wallendaのマネジャーたちの要求により、ABCが未払い分の送金が行なった⁵⁰⁾。

Niagaraのイベントは、中止されるかと思うと、実施可能になるということの連続で、Nik Wallendaが意志強固で熟達したワイヤーウォーカーであることに異論を唱える者はいないとしても、彼の心はかき乱され続けていた。彼は、神に祈り、神に語りかけることで心の平安を見出だし、この全てのプロセスの中でも平静を保とうとした⁵¹⁾。彼自身が述べているように、もしキリス

ト教への信仰心がなければ、彼は完全に気が狂ってしまったかも知れないだろう。彼は心を静めるために次のように祈り続けていた。

「親愛なる主よ...異議と否定の雑音から私を遠ざけて下さい。あなたの善、あなたの慈悲、あなたの永遠の愛に私の焦点を合わせ続けて下さい。私の精神が高揚し過ぎたり、落胆し過ぎたり、興奮し過ぎないようにして下さい。私が論争にうんざりし過ぎないようにして下さい...あなたの御意志の中に私が錨を下ろしたままでいられるようにして下さい。何が必要であり何が正当であるかについてのあなたの感覚の中で、私がバランスを保てるようにして下さい。世の人々の言う通りの条件で、世の人々と折り合いがつけられるようにして下さい。しかし、私が絶望しないようにさせて下さい。この大いに不快なときに私とともにいて、私を慰めて下さい。」⁵²⁾

イベントの数日前、依然として心が乱れていたとき、彼は、思いがけなく親友 Bello Nock と再会した。“Bellobration”での Nik の役は、Bello の引き立て役に留まっていたが、*Today Show* が大成功を収め、自分一人の演技の経歴が確固たるものになって以来、彼らは全く別々の道を歩んでおり、数年間会わないでいるうちに二人の間には無言の緊張感が漂っていた。しかし偶然にも自分が滞在している地域でショーを公演しており、Seneca Niagara Casino and Hotel の駐車場で公開練習を見に来てくれた Bello Nock の姿を群衆の中に見つけた Nik Wallenda は、親愛なる兄ともいべき Bello に、ワイヤーを登って来るよう呼びかけ、ワイヤー上に来た Bello に腕を回して、世界一の命知らずのクラウン偉大な Bello である、と観客に紹介し、公開練習の後の記者会見のときにも Bello を絶賛し、Bello も Nik を賞賛した⁵³⁾。その日の夜 Bello のショーを見に行くと心が和らいだ Nik は、ようやく安らかな気持ちになった。

【注】

- 1) <http://www.niagarathisweek.com/news-story/3265493-wallenda-s-plan-for-the->

- falls/(November 18, 2013).
- 2) [http://www2.macleans.ca/2011/08/05/a-daredevil% E2% 80% 99s-toughest-challenge/](http://www2.macleans.ca/2011/08/05/a-daredevil%E2%80%99s-toughest-challenge/) (November 18, 2013).
 - 3) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.186.
 - 4) <http://www.niagarafallsreporter.com/Stories/2012/June12/TrevinoMaziarz.html> (November 9, 2013).
 - 5) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.187. ; http://www.tonawanda-news.com/top_stories/x1406730416/A-walk-months-in-the-making (November 16, 2013).
 - 6) http://www.tonawanda-news.com/top_stories/x1406730416/A-walk-months-in-the-making (November 16, 2013).
 - 7) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.188.
 - 8) *Ibid.*, p.188.
 - 9) [http://www2.macleans.ca/2011/08/05/a-daredevil% E2% 80% 99s-toughest-challenge/](http://www2.macleans.ca/2011/08/05/a-daredevil%E2%80%99s-toughest-challenge/) (November 18, 2013).
 - 10) http://www.thestar.com/news/gta/2012/06/16/nik_wallendas_biggest_battle_getting_officials_to_say_yes.html (November 16, 2013).
 - 11) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.189.
 - 12) *Ibid.*, p.189.
 - 13) <http://www.niagaraparks.com/files/NPC-Nik-Wallenda-Proposal-Release-FINAL.pdf#search='Janice+Thomson+NPC+Nik+Wallenda'> (January 14, 2014).
 - 14) Nik Wallenda with David Ritz,*op.cit.*, p.190.
 - 15) *Ibid.*, p.190.
 - 16) <http://www.heraldtribune.com/article/20120428/ARTICLE/120429545?p=4&tc=pg> (January 25, 2013).
 - 17) <http://www.heraldtribune.com/article/20120428/ARTICLE/120429545?p=4&tc=pg> (January 27, 2013).
 - 18) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.191.
 - 19) http://www.thestar.com/news/gta/2012/06/16/nik_wallendas_biggest_battle_getting_officials_to_say_yes.html (November 16, 2013).
 - 20) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.192. ; <http://www.torontosun.com/2012/02/15/daredevil-gets-ok-tightrope-niagara-falls> (January 14, 2014).
 - 21) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.192-193.
 - 22) http://www.mediabistro.com/tvnewser/wallenda-wire-walk-scores-in-canada-too_b133565 (November 17, 2013).
 - 23) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.193.
 - 24) <http://www.ripleysnewsroom.com/baltimore/>(January 14, 2014). ; http://articles.baltimoresun.com/2012-05-09/news/bs-md-wallenda-ripleys-opening-20120509_1_karl-wallenda-wire-barge (November 17, 2013).
 - 25) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.194.
 - 26) www.youtube.com/watch?v=hQMI1baxm6Q (January 14, 2014).

- 27) <http://www.stcatharinesstandard.ca/2012/05/22/abc-orders-wallenda-to-wear-harness-for-falls-walk> (January 14, 2014).
- 28) <http://www.heraldtribune.com/article/20130127/article/130129620?p=1&tc=pg> (November 22, 2013).
- 29) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.194.
- 30) Delilah Wallenda and Nan Devinentis-Hayes, *op.cit.*, p.23. ; Tom Ogden, *op. cit.*, p.363.
- 31) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.195.
- 32) *Ibid.*, p.195.
- 33) Philippe Petit, *To Reach the Clouds: My High Wire Walk between the Two Towers* (London : Faber and Faber, 2002), p.48.
- 34) *Ibid.*, pp.48-49.
- 35) *Ibid.*, p.49.
- 36) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.195.
- 37) Philippe Petit, *op.cit.*, p.48.
- 38) <http://usatoday30.usatoday.com/news/nation/story/2012-06-15/nik-wallenda-niagara-falls-walk/55624724/1> (November 17, 2013).
- 39) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.195.
- 40) *Ibid.*, p.196. ; <http://www.ctvnews.ca/canada/nik-wallenda-makes-historic-niagara-falls-walk-1.841429> (November 17, 2013).
- 41) <http://www.stcatharinesstandard.ca/2012/06/18/nik-slams-ny-state-parks> (January 14, 2014).
- 42) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.196. ; <http://usatoday30.usatoday.com/news/nation/story/2012-06-15/nik-wallenda-niagara-falls-walk/55624724/1> (November 17, 2013).
- 43) <http://www.ctvnews.ca/canada/nik-wallenda-makes-historic-niagara-falls-walk-1.841429> (January 14, 2014).
- 44) <http://www.niagarathisweek.com/news-story/3265493-wallenda-s-plan-for-the-falls/> (November 18, 2013). ; <http://www.heraldtribune.com/article/20120428/ARTICLE/120429545?p=4&tc=pg> (January 25, 2013).
- 45) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.197. ; http://www.thestar.com/news/canada/2012/06/12/nik_wallenda_walking_the_walk_will_cost_up_to_13_million.html (January 16, 2014).
- 46) <http://www.stcatharinesstandard.ca/2012/06/18/nik-slams-ny-state-parks> (January 15, 2014).
- 47) http://www.thestar.com/news/canada/2012/06/12/nik_wallenda_walking_the_walk_will_cost_up_to_13_million.html (January 16, 2014).
- 48) <http://www.indiegogo.com/projects/nik-wallenda-s-walk-across-niagara-falls> (January 15, 2014).
- 49) <http://www2.macleans.ca/2012/06/18/next-the-grand-canyon-wallenda-tells->

macleans/(January 14, 2014).

- 50) <http://www.wivb.com/news/wallenda-walk/state-nearly-pulled-plug-on-wallenda> (January 14, 2014).
- 51) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, pp.196-198.
- 52) *Ibid.*, p.198.
- 53) *Ibid.*, pp.199-200.

IV Niagara の滝渡りの成功

2012年6月15日に Nik Wallenda は早起きし、前夜の夢を思い出した。その中で曾祖父 Karl は彼と一緒に歩き、彼を励まし、慰めてくれた。曾祖父は彼に、万事うまく行くと知らせてくれた。Karl は彼が眠っている夜の間、彼と一緒にいてくれ、目ざめて準備を整えているときも、彼の心の中にいた¹⁾。

妻と三人の子供、両親は、友だちとともに Nik のそばにいてくれた。安らかな境地に達した Nik は周囲にある美—神の美、呼吸の美、自分がこの瞬間の準備をするのを助けてくれた全ての人々に感謝を捧げることに美—に焦点を合わせながら過ごしていた。ワイヤーウォークの間、父と会話できるように彼はワイヤレスマイクを付けており、ABC のキャスターから実況放送でインタビューしても構わないかと尋ねられたときに、それを了承した。

世紀の Niagara 渡りを見るために大群衆—アメリカ側で2万人以上、カナダ側で12万人が集まったのだが、当日の朝から滞在中のホテルの窓越しに見物人の姿を眺めることを期待していた Nik は、正午を過ぎ、午後6時になってさえ僅かな人影しか見つからなかったので、「この信じられないほどの努力の後で、誰も本当に興味を持ってはいないのか？」²⁾ と訝^{いぶか}しみ、ワイヤーウォークを成し遂げる自分の能力ではなく、イヴェントを特別なものにするような空前の群衆を引き寄せる能力に欠けていたのかと不安になったと *Balance* の中で述べている。現実には当日の早朝から大勢の人々が集まっていたが、混雑による事故を避けるために、警察がイヴェント開催地の近隣の交通規制を行

なっていたのであろう。午後7時になると（Wallenda の表現によれば）「奇跡」が起こり、あたかも合図を与えられたかのように、あらゆる年齢、あらゆる人種の人々がイベント開催場所に群がり始め、草の葉も見えないほどになった。自分自身の長年の準備、何世代にも亘る準備、子供の頃からの夢、先祖から受け継いだ天賦の才能を全世界に示すときが来たが、Nik は、自分の回りに渦巻く人々と信じられぬほど多くのライトに圧倒されそうになり、心の支えである神に全ての関心を注ぐことに喜びを見出した³⁾。彼は、濡れたケーブルの上を歩く場合でも牽引力を与えるように母が作ってくれたモカシンを履いていた⁴⁾。

現地時間6月15日午後10時16分⁵⁾、彼は長さ12メートル・重さ16キロのバランス棒⁶⁾と視聴者に鳥観図を提供するためのテレビカメラとバッテリー等を合わせた総重量60ポンド（27.2キロ）の荷⁷⁾を持ち上げ、Niagara の滝の最も広い部分を横断する550メートル（1,800フィート）のワイヤーウォークに出発した。この決定的瞬間の胸中について、回顧録 *Balance* では次のように記されている。「私は最初の一步を踏み出した。私はワイヤーウォークの領域に入った。その領域は、神と神の栄光が至る所に顕在する所であった。その領域では、直覚力と穏やかな感情によって動くことができ...無意識に、計画通りに、動くことができる。」⁸⁾

壮大で不朽の夢のような Niagara の滝、信じられぬほど多くのライト、大群衆、眼下の河に浮かぶ船と頭上のヘリコプター数機という信じ難い光景を目の当たりにして彼にできたことは、神を称賛することだけであった。そして、自分に生を授けて下さったことに対していかに感謝しているか、全能の神に述べることだった。彼は続けて、次のように祈った。「このワイヤーウォークに祝福あれ。この夜に祝福あれ。あなたの創造物の壮麗さが全世界に明らかに示されている、この瞬間に祝福あれ。」⁹⁾ 眺望の荘厳さは彼がこれまでに見たどんな物にも、これまでに想像した何物にもまさっていた。彼はそれを「神が描いた最も偉大な絵画、畏敬の念を起こさせる崇高な景観」¹⁰⁾として眺めた。彼は、これまでこの特別な場所にいた人間は決していなかったのだと気づき、感謝の

思いで感極まった。彼は大自然の中で、いかに人間が小さな存在であるかを実感して、万物を創造した神への崇敬の念を深めた。

彼はワイヤーウォークの中心地点に至るまでの275メートルを（傾斜角5度か6度で）出発地点から11メートル下方まで下降した¹¹⁾。Nik Wallendaの精神的・肉体的強靱さをもってしても、死と破壊以外の何物も連想させない恐怖のHorseshoe Fallsの縁の真上に来たときには神経が破壊され、これは彼にとって真の不屈の剛毅さの試練となった¹²⁾。彼は、ワイヤーがどこにあると、ワイヤーと目標地点に焦点を絞ることは同じなのだと自分に言い聞かせ、意志を集中させるために神に祈った。しかも彼がその地点に到達したとき、濃霧がたちこめたが、何とか彼は制御した。風も霧も雨も、予想された事態の一部であったし、濡れて滑りやすいケーブルの上で牽引力を維持することは確かに困難であったが、彼は気にかけず、父と無線で「万事うまくいっている。」と話すことができ幸福であった。彼は、自分の心情を率直に語りながら、歩みを進めた。

このワイヤーウォークは、Karl Wallendaの不屈の精神が生きており、父なる神であるあなたが私の道を導く御言葉であることを称賛し、それを確認するものである。父なる神であるあなたは、全ての称賛、全ての献身、全てのエネルギーに値する。私とともに歩いて下さい。私と一緒にいて下さい。父なる神よ、私の安らぎ、私の変わらざる友、私の礎、私の贖い主であって下さい¹³⁾。

ケーブルはたわみ、揺れ、上に下に湾曲した。ワイヤーウォーク中の滝の上空の風は、最高時速22.4キロという荒々しいものであった。風が吹き、冷たい濃霧が両眼を覆って視覚をしばしば奪い、層を成した雨が彼に降りかかった¹⁴⁾。しかし、その間中、彼は微笑み、彼の心は笑い、歌っていた。信仰に支えられた彼の心は、これまでになく幸せな思いに満たされ、実況解説者からの質問に答え、幸せな思いで父を連絡をとり、幸せな思いで祈り続け、人類史

上初の完全な形で Niagara の滝渡りを実行することによって、神への自分の無限の愛を表現し続けた¹⁵⁾。

自然の脅威に晒されながら、休むことなく、60 ポンドの重荷を持ち上げて歩み続けた彼は、「私は疲労困憊しており、両手の感覚が麻痺しつつある。体力が弱まって行くように感じる。」¹⁶⁾と率直にリポーターに語った。

出発してから約 25 分後にカナダ側の最終目的地に近づいたとき、彼はワイヤー上に片膝をついて手を振り、12 万人の大群衆に投げキスを贈り、それから身体を起こして右の拳を上下に勢いよく振り、最後の数フィートを速足で駆け抜けた¹⁷⁾。ゴールでは妻と 3 人の子供が彼を迎えるために待っていた。世界中から訪れた新聞記者や写真家も群れを成していた。出発する前、彼はポケットにカナダに着いたときに提示するためのパスポートを入れておいたが、現実にカナダの入国管理官から旅の目的を尋ねられたとき、彼は“To inspire people around the world.”（「世界中の人々に靈感を与えるため」）と答えた¹⁸⁾。これは、彼の偽らざる心情を簡潔に表現したものであるが、より正確には、後に彼自身が説明しているように、彼の望みは「このワイヤーウォークが、自らの目標を達成し、夢を実現するように世界中の人々に靈感を与えること」¹⁹⁾であった。Nik Wallenda のこの言葉は、大衆芸術家が自己の存在意義そのものを説いたと理解できるであろう。

Nik Wallenda の偉業が人類史上に足跡を留めることは間違いないが、芸術家としても、人間としても彼よりも優れていた wire walker が Niagara の滝渡りをライフワークとしていたことも忘れてはならない。Jay Cochrane（1944～2013）は Canada の New Brunswick 州 Saint John に生まれ、50 年間に亘って high wire artist として活躍し、1995 年に中国の揚子江上 1,340 フィートに張り渡された 2,098 フィートのワイヤーを渡り（観客 25 万人）、1999 年に Las Vegas の Flamingo Hotel で地上 300 フィートに張り渡されたワイヤー 800 フィートを完全に目隠しして渡った人である。彼は 30 年間に亘り、Niagara の Horseshoe Falls を渡る申請を行ない続け、30 万ドルを費やして調査を行ない、危うく自分の住む家を失うほどの情熱をかけ、この滝を渡ること

を彼の芸術家としての人生最後の目標としてきた。不運にも彼は、Wallendaのようにマスコミを動かし、政治的駆け引きに勝利を収めることができず、Nik WallendaがNPCの許可を得たと聞いたときには壊滅的打撃を受けたに相違ないが、決して彼を中傷することなく、まだまだ未熟な彼に助言を与える一方、彼の業績を評価するだけの高貴さを持っていた²⁰⁾。CochraneはWallendaの成功後、CanadaのNiagara Falls市で“Skywalk 2012”を開催し、19キロメートルのスカイウォークを68歳で成し遂げた。営利を目的とせず、名声を追うこともしない真の芸術家であった彼は、スカイウォークの観客のチャリティ募金を少年少女のための社会福祉に捧げた²¹⁾。彼は、Nik WallendaのNiagara Falls Walkに関しては「Horseshoe Fallsでは、どこでも、水しぶきを伴う霧が空中380フィートから590フィートの所に漂っており…Nikは史上初めて（そこを渡る）好機に恵まれたのだ。」²²⁾と評してWallendaの成功を喜んだ。Cochraneに深く感謝していたWallendaは、近い将来、彼とともに仕事をすることを望んでいたが、癌との闘病生活の末に、彼は2013年10月30日に世を去り、Wallendaは心からの哀悼の意を表した²³⁾。

Niagaraの滝渡りの成功後、Nikは、孫の身を案ずる余り、ABCのテレビ実況放送を見ていられないと言っていたSarasota在住の祖母すなわちKarl Wallendaの娘Jennyに電話をかけて無事を知らせ、祖母を愛していると告げた。彼は自分のそばにいてくれた両親にも自分の愛を伝えた。記者会見で、彼が「一見不可能と思えることでも、専念すれば必ずしも不可能ではなくなる。」²⁴⁾と述べたのは有名なエピソードになっている。

翌朝彼は、イベント前にEnigma Researchで推定4億1千万人と推定されていた視聴者が、イベント後の調査では倍以上の推定10億の視聴者を獲得したのだ²⁵⁾と知った。アメリカ合衆国で、2時間の特別番組の最後の30分間の視聴者数は1,330万人²⁶⁾で、この番組全体の視聴者の平均は1,030万人であった。カナダ側では番組のピーク時に680万人、番組全体の視聴者の平均数は390万人であった²⁷⁾。

しかし、この大騒乱にも関わらず、Nik Wallendaは妻や子供たちとともに

ホテルに戻ったときに、ようやく彼が長年追求してきた業績を成し遂げたことで心の安らぎを得られた。

信念を貫き通すことで彼は精神のバランスを保ち、魂の自立を維持することができたが、彼の信念とは、単にワイヤーウォークを成功させるだけでなく Niagara の滝一帯の美しい環境を守ることでもあったので、翌日、アメリカ側の Goat 島で、見物の大群衆が残した夥しいゴミ収集作業を手伝った²⁸⁾。彼は、自分が人々の注目を集めたいという凄まじい野望をもって、これまでの人生を歩んできたのだが、その目的が達成された以上、我が身を慢心の高みから引き下ろすことの必要を感じていた。彼は、自分の性格の欠陥を知っており、自分自身が謙遜ではないと認識していたので、無数の人々の熱狂的歓呼に酔いしれる愚かさに溺れないように心がけた。そこで、ワイヤーウォークのために Canada 側に定着装置を設置する目的で掘った穴を埋めて、地面をもと通りにする重要な作業をするために、彼は他の作業員同様、地面に両手と膝を突いて働いていた。ところが、そんな謙遜ぶったことをしても、所詮、自分をよく見せて名誉を高めるつもりだろうと誹謗する者もいた²⁹⁾。

さらに、Wallenda が Niagara Falls Walk の間中、祈りを唱えていたことが聖人ぶった作威的な行為だと冷笑されたが、実は彼は、自分の祈りが世界中の視聴者に聞こえていたとは思ってもみなかった。彼は ABC の実況担当者たちとの会話と父との会話のみが視聴者側に聞こえるように設定されているのだと予測していたが、最も危険なワイヤーウォークのさ中に、自分の魂のバランスが保てるようにイエス・キリストに救いを求め、救世主に自分が感じている愛と謝意を率直に表現したことを世界中の人々が聞いていたと知って喜んだ。彼は自分の祈りによって心を動かされたと述べている人々からの手紙や電子メールを受け取って心が和み、また回顧録 *Balance* を出版する上での共著者 David Ritz が、自分の Niagara での祈りを聞かなかったなら、自分を助ける気にならなかったと言っているのを聞いて嬉しく思った³⁰⁾。

Nik Wallenda のイベントが New York 州 Niagara Falls 市に 6 月 15 日から 3 日間に 330 万ドルの経済波及効果をもたらしたことが、Niagara 大学

の Hospitality Training and Research Center の調査によって明らかとなり³¹⁾、Niagara Tourism & Convention Corporation の CEO である John Percy は、この市に連泊する人々が多かったと指摘した³²⁾。

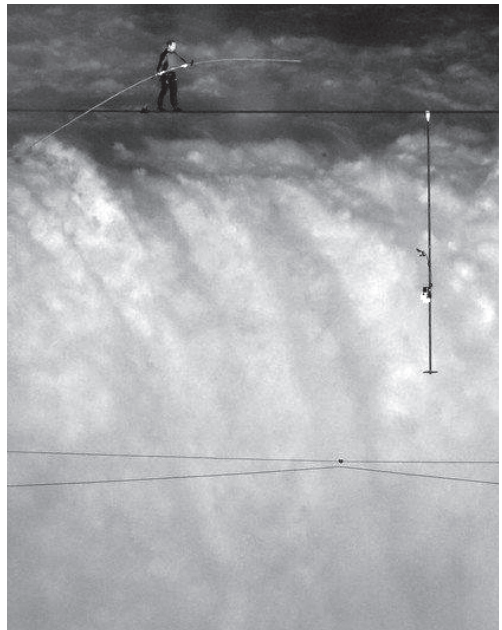
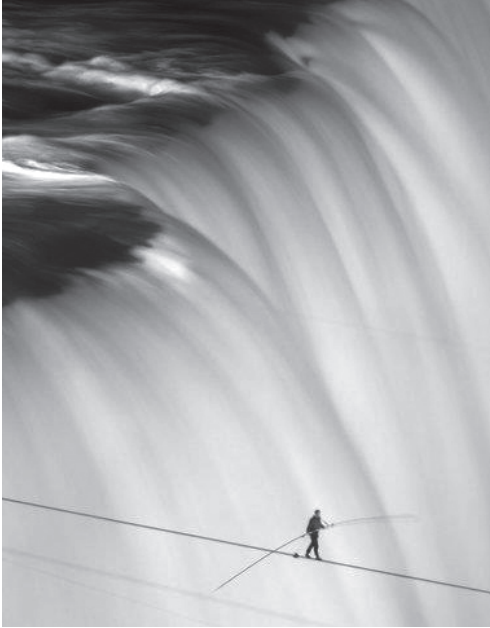
Niagara でのワイヤーウォークの後、Wallenda は、Niagara の滝渡り以前に仕事をしていた Missouri 州 Branson のテーマパーク Silver Dollar City で開催されている Fabulous Wallendas Famous Family Circus での演技に戻り、このテーマパークでの祝賀パレードの後、妻や母とともに演技する生活を行なった³³⁾。

New York 州 Niagara Falls 市長 Paul A. Dyster は Nik Wallenda に市の鍵を贈り、この市が Goat 島に彼の功績を残すための記念碑を建てるかも知れないと語り³⁴⁾、Canada 側の Niagra Falls 市長 Jim Diodati は Wallenda の彫像を建てることを提案した³⁵⁾。そして、最初は頑なに Wallenda の Niagara 渡りを拒絶していた NPC 議長 Janice Thomson は 180 度態度を変え、この行事が Niagara 河の自然美を世界中に示したいと願っていた目的を完全に成功させた³⁶⁾と認め、Table Rock 付近と White Water Walk に記念碑を建てることを計画していると述べた³⁷⁾。

常に世の人々の注目を集めることを求める職業に就いている Nik Wallenda は、賞賛から誹謗まで様々な人々のありとあらゆる激烈な感情に晒されている以上、精神的に不安定にならざるを得ないが、自らを意識的に神と結びつけることで、サーカス・アーティストとしての信念を守り通している。Niagara での成功に甘んじることなく、次の目標であった Grand Canyon Walk でこそ、安全防具の束縛を受けることなく、自己の本領を発揮できたことに、彼は初めて真の喜びを見出だすことができたのであろう。

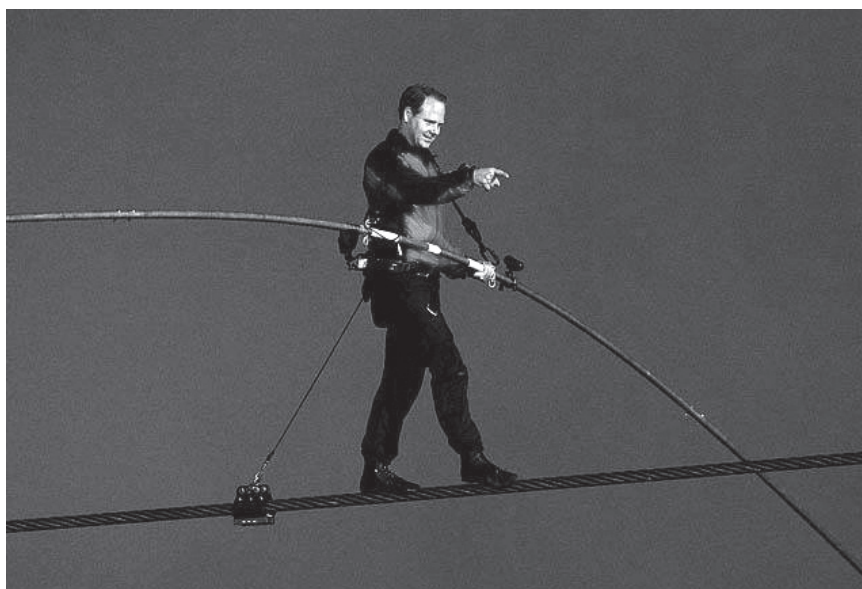


Niagara の Horseshoe Falls を渡る Nik Wallenda
(2012 年 6 月 15 日)

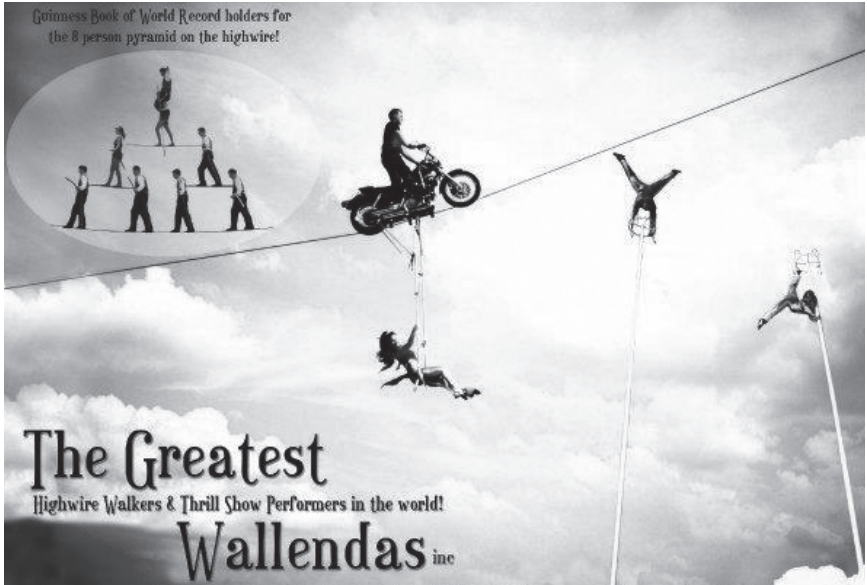




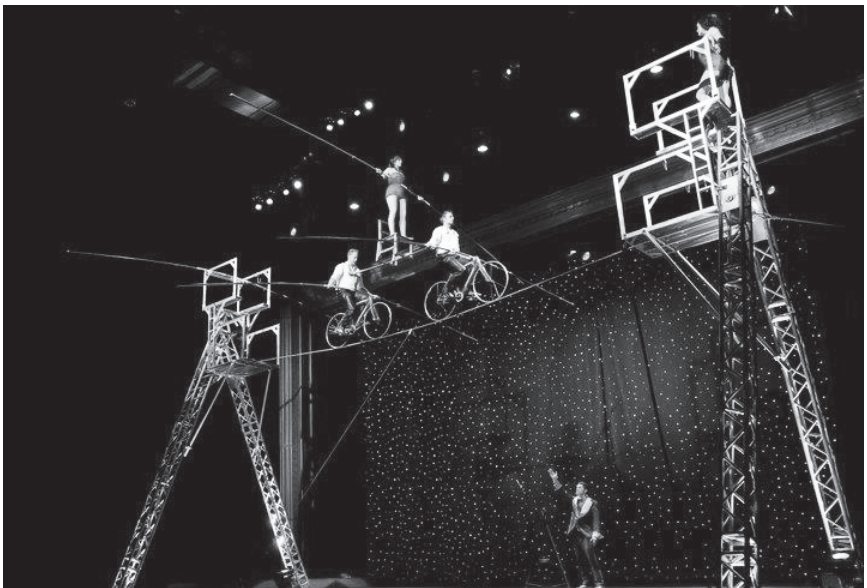
Horseshoe Falls の濃霧の中を進む Nik Wallenda



Niagara の滝渡りのゴールに近づいた Nik Wallenda



Wallenda 一族の公演



Wallenda Family Circus (Missouri 州 Branson)

【注】

- 1) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.200.
- 2) *Ibid.*, p.201.
- 3) *Ibid.*, p.202.
- 4) <http://www.foxnews.com/us/2012/06/15/wallenda-readies-for-tightrope-walk-over-niagara-falls/#ixzz1xvwsAAGa> (January 15, 2014).
- 5) <http://www.ctvnews.ca/canada/nik-wallenda-makes-historic-niagara-falls-walk-1.841429> (January 14, 2014).
- 6) <http://www.niagarathisweek.com/news-story/3265493-wallenda-s-plan-for-the-falls/> (January 15, 2014).
- 7) <http://www.heraldtribune.com/article/20130616/ARTICLE/130619729#gsc.tab=0> (January 15, 2014).
- 8) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.203.
- 9) *Ibid.*, p.203.
- 10) *Ibid.*, p.203.
- 11) <http://www.niagarathisweek.com/news-story/3265493-wallenda-s-plan-for-the-falls/> (January 15, 2014).
- 12) <http://abcnews.go.com/blogs/headlines/2012/06/nik-wallenda-reflects-on-historic-niagara-falls-high-wire-walk/> (November 21, 2013).
- 13) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.204.
- 14) <http://usatoday30.usatoday.com/news/nation/story/2012-06-15/nik-wallenda-niagara-falls-walk/55624724/1> (November 19, 2013).
- 15) <http://newsfeed.time.com/2012/06/16/daredevil-nik-wallenda-successfully-crosses-niagara-falls-on-a-tightrope/> (January 15, 2014).
- 16) <http://www.independent.co.uk/news/world/americas/nik-wallendas-niagara-tightrope-triumph-78856648.html> (January 15, 2014).
- 17) Nik Wallenda Walks Across Niagara Falls-Complete Raw Video (www.youtube.com/watch?v=JJmxGWK-yjw) (January 15, 2014).
- 18) <http://abcnews.go.com/WNT/video/nik-wallendas-niagara-falls-walk-daredevil-high-wire-stunt-us-16586935> (January 15, 2014).
- 19) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.205.
- 20) <http://www.thesudburystar.com/2013/11/01/jay-cochrane-its-an-artistic-performance> (November 22, 2013).
- 21) <http://skywalk2012.com/jay-cochrane-and-niagara-falls> (January 15, 2014).
- 22) <http://www.heraldtribune.com/article/20120428/ARTICLE/120429545?p=4&tc=pg> (February 25, 2014).
- 23) <http://www.jaycochrane.com/jay-cochrane-remembrances> (January 15, 2014). Jay Cochrane は、ハイワイヤー・アーティストであるとともに endurance artist (耐久技のアーティスト) としても名高い人であったが「耐久」とは人と競うことではなく、他の全ての人が断念したときに自分自身と競い、自分自身を平均的な水準以上に高め

ることである、と述べており、彼が世俗的な野心を超越した聖人に近いアーティストであった点に我々は深い感銘を受けるであろう。(The Miami Herald, March 1, 1985)

- 24) <http://articles.latimes.com/2012/jun/15/nation/la-na-wallenda-20120616> (January 15, 2014).
- 25) <http://www.torontosun.com/2012/06/17/wallenda-put-niagara-falls-on-front-burner-mayor-crows> (January 15, 2014).
- 26) <http://rbr.com/abc-tops-the-week-with-nba-finals/>(January 15, 2014).
- 27) http://blog.syracuse.com/entertainment/2012/06/abc_ratings_nik_wallenda_wire_walk_niagara_falls.html (January 15, 2014).
- 28) <http://www.wkbw.com/news/nik-wallenda/Wallenda-Helps-Clean-up-After-Walk-159327095.html?vid=a> (January 15, 2014).
- 29) Nik Wallenda with David Ritz, *op.cit.*, p.208.
- 30) *Ibid.*, pp.208-209.
- 31) <http://www.wgrz.com/news/article/173173/37/Wallenda-Impact-on-Niagara-Falls-Exceeds-33-Million> (January 15, 2014).
- 32) <http://www.niagara-gazette.com/local/x1058724636/WALK-THIS-WAY> (January 15, 2014).
- 33) <http://www.prweb.com/releases/2012/prweb9625955.htm> (January 15, 2014).
- 34) <http://www.niagarafallsreporter.com/Stories/2013/Feb5/DysterBlowsHorn.html> (January 15, 2014).
- 35) <http://www.bulletnewsniagara.ca/2012/06/27/niagara-falls-mayor-wants-sculpture-honouring-wallendas-wirewalk-near-table-rock/>(November 21, 2013).
- 36) <http://www2macleans.ca/2012/06/18/next-the-grand-canyon-wallenda-tells-macleans/>(November 18, 2013).
- 37) <http://www.bulletnewsniagara.ca/2012/06/27/niagara-falls-mayor-wants-sculpture-honouring-wallendas-wirewalk-near-table-rock/>(November 23, 2013).

結び

大衆芸術家としての Nik Wallenda は「サーカス」というライヴ・エンターテインメントが生み出した栄えある産物であり、彼は、自分の一族の歴史を誇りに思い、自らがサーカス芸術に輝かしい魅力を与えるために大いに貢献したことを誇らしく思っている。そして Niagara 渡りによって立証されるように、圧倒的な迫力を持つ大自然という舞台背景を用いた空中演技のエンターテイン

メントを魅力的な形態にするために自分が献身したことを誇りに思っている。彼は、サーカスの空中演技を、現代的で創意に富み、従来以上に人々に強い印象を与え、時代の最先端を行くような斬新な大衆芸術となるよう努めて来た。彼の演技の多くが、伝統的サーカスの技術をスタントの世界に展開させたものであることは注目に値する。サーカスの世界に生まれた者として自然に身に付いている様々な技術を包括・発展させ、大テントの下ではなくヘリコプターからぶら下がりアイアン・ジョーの技を披露したり、高層建築と巨大なクレーンの間に張り渡したワイヤー上を自転車で進んだり、梱包用の箱に入った後、それを爆破して箱から無事に脱出する、といった究極のスタントとして公演し、元来、サーカスから観客を奪う宿敵であったテレビというメディアを最大限に活用して、全世界に勇壮な演技を披露するという独創的かつ壮大なヴィジョンを実現できた人間は、歴史上 Nik Wallenda ただひとりだったと言えよう。サーカスに演劇的要素を加え、豪華絢爛たる衣装と舞台装置で観客を幻惑する Cirque du Soleil は、極端に高価な入場料に見合うだけの超絶的演技や独創性を提供することに行き詰まり、*Viva Elvis* の興行打ち切りや *Zarkana* の不評からも明らかのように、大衆から既に背を向けられ、人気に陰りを見せつつある。これと正反対に、奇を衒うことも、けばけばしい衣装をまとうこともなく、生身の人間が、命がけで極限の技を披露することが、サーカス芸術の原点であったことを思い起こさせてくれるのが、Nik Wallenda の演技である。

アクロバットやスタントは極めて激しい身体の活動を伴う演技であるが、大衆芸術家としての Nik Wallenda の本領は、彼自身が認めている通り high wire に他ならない。彼は、尊敬する曾祖父 Karl Wallenda の “Life is being on the wire; and everything else is just waiting.” という言葉をしばしば引用し、ワイヤーの上にいるときこそ自分の真の人生であり、全ての雑念から解放され、心の平安と自由の境地に至り、完全に自分自身の世界に没入できることを強調している。

エンターテインメント企業家としての Nik Wallenda は Florida 州 Sarasota の Wallendas Inc. のディレクターとしてブランドを築くために奮闘している

が、Ringling Brothers and Barnum & Bailey Circus, Disney on Ice!, Disney Live!などを運営する世界初のライブ・エンターテインメント企業Feld Entertainment（観客動員数は毎年約3,000万）や、CanadaでGuy Lalibertéが創業したCirque du Soleilに比較すれば、小さな企業であることは否めない。しかしDisneylandをはじめとするテーマパークのスペクタクルショーの開発には最低1000万ドルを費やすのが常識であることを思えば、人類史上に永遠にその名を残すであろうNik WallendaのNiagaraのイベントが驚くべき低予算で実施され、実質25分間の彼の演技を見るために（アメリカとカナダを合わせて）14万人を現地に殺到させる集客力を持ち、全世界で推定10億人の視聴者を獲得した事実に注目すれば、サーカス産業が21世紀のエンターテインメントとして、驚嘆すべき将来性を秘めていることは明白である。

三世に亘る誇り高い先祖伝来のサーカス・アーティストの気質を受け継いできたNik Wallendaは、20世紀後半にサーカスというライブ・エンターテインメントがテレビの普及によって衰退の危機に瀕していたとき、自分が最も愛するhigh wireの演技が行なえなくなることを恐れ、30年間の献身的な努力によってサーカス芸術の新境地を開拓し、幼少の頃からのNiagaraの滝を渡る夢を実現するとともに、マスメディアを最大限に活用することによって、自己の演技の真価を実況放送を通じて世界中の人々に認識させ、サーカス産業への壮大な展望を示したことにおいて、紛れもないアメリカン・ヒーローであると述べて、結びの言葉に代えたい。

本稿執筆にあたり、Nik Wallenda氏とV.W.Scheich氏の御尽力をいただいたことに深く感謝申しあげる。

The Significance of Nik Wallenda's Achievements in American Circus Industry
—Special Reference to His High Wire Walk over Niagara Falls—

by

Noriko Onoe

It is widely known that Nik Wallenda made history by being the first person in the world to walk directly over Niagara Falls on June 15, 2012. He is a seventh-generation member of the Flying Wallendas; a family of aerialists led by the legendary funambulist Karl Wallenda, who died after falling from a tightrope in Puerto Rico in 1978. He considers his feat as the fulfillment of his lifelong dream as well as a celebration that the indomitable spirit of his great-grandfather Karl Wallenda is alive.

As Nik states, Tight Rope is the apex of engineering and personal discipline requiring physical strength and will power to maintain balance. And high wire walking has been the important part of popular entertainment in American cultural history.

At the age of 13, Nik made his first high wire performance. As he was growing up, he thought about going into conventional careers because the circus industry seemed to be dying. But, in 1998, he and his family members recreated the seven-person pyramid in Detroit where his family had fallen back in 1962. They won the highest praise from the public and the media was overwhelming. It was then he realized their industry was not dying but they had to change with the times. He decided to be a tightrope walker in order to display courage and confirm the continuity of the great tradition of Wallendas.

The Niagara Falls Walk marked Nik Wallenda's seventh world record, and with this walk, he wanted to elevate and evolve the circus art just as his hero Karl Walenda did with the seven-person chair pyramid. He is very proud of his efforts to repackage aerial entertainment in dramatic settings. He has tried to

make it modern, inventive, and more exciting. We may be dazzled by the absolutely gorgeous stage effects of Cirque du Soleil, but it is doubtful whether this newfangled entertainment group really has a strong hold on the public mind for a long time. Wallenda has his own vision for the future of circus; he is taking his talents out of the big top and into other venues. It is important that a lot of what he is doing is expanding his circus skills into the stunt world; he hung by his jaw from a helicopter, rode a bicycle on a high wire suspended between two buildings, and performed a stunt on the Wheel of Death high above the boardwalk. We must notice that he tries to stage the age-old circus arts as the extreme stunts they actually are. As a true daredevil, he regards his mission is to entertain and thrill the audience. And, at the same time, as a high wire artist, Nik Wallenda emphasizes that he can feel peace and freedom on the wire and can get into his own world.

As an entrepreneur, he strives to establish his own brand. At present, Wallendas Inc. is not so big as Feld Entertainment which operates Ringling Brothers and Barnum & Bailey Circus or the Canadian entertainment company Cirque du Soleil. But Everyone admires the fact that his 25 minute tight-rope walk could attract more than 140,000 people on both sides of Niagara Falls and one billion people had seen or heard about his walk. It is quite obvious that Nik Wallenda's feat proves the promising future of circus industry.

When the Canadian customs agent asked him about the purpose of his trip, he boldly replied, "To inspire the people around the world." Nik Wallenda was able to fulfill his lifelong dream that no one in the world had even been able to. And he wishes his Niagara Falls Walk to inspire people throughout the world to achieve their goals and realize their dreams.

Through the medium of television, a vast number of people all over the world could appreciate his superhuman feat over Niagara Falls. It is worthy of notice that Wallenda's walk created a surge of interest in circus arts and cir-

cus industry across the world. Nik Wallenda must be the American hero who dedicates himself to reinvent circus for a new generation.

I am deeply grateful to Mr.Nikolas (Nik) Wallenda and Mr.V.W.Scheich who inspired me to make research on the glorious achievements of Wallenda family in American circus industry.